

地歴		科 1 年		世界史A		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	世界史A	対象	スポーツ	コース	単位数	2 単位	
教科書	要説 世界史 [改訂版]			出版社 山川出版社			
副教材	最新世界史図説エスカリエ [十二訂版] (帝国書院)						

1 学習の到達目標

<p>① 世界の歴史に関する興味・関心を高め、意欲的に学習する態度を育成する。</p> <p>② 世界の歴史の大きな枠組みと展開を、地理的条件や日本の歴史と関連付けて理解する。</p> <p>③ 世界の歴史の理解を踏まえて、現代の人類が直面する課題を様々な観点から考察する能力を育成する。</p> <p>④ 世界の歴史の理解を踏まえて、日本やアジア地域への理解の上に、他国、他地域との協調関係を築いていく態度を育成する。</p>
--

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノート提出	学習活動における 発言内容 定期考査 ノート提出	定期考査 課題プリント提出	定期考査 課題プリント提出

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・ノート提出・課題提出など) 2割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容とねらい	時間数
4	ガイダンス	・「学習のねらい」「授業の概要」「評価方法」について説明。	1
5	学習方法習得体験学習	・世界史の学習方法を体得する。	1
	[第5章] 世界戦争と平和 【1学期中間考査】 帝国主義の成立と大衆社会の成立	・19世紀から20世紀にかけての世界の歴史に触れ、戦争の発生と平和への試みを学習することを通して、世界が一体化していく様子を理解する。 ・帝国主義の特色と欧米社会の変容について理解する。	4

6	列強の国内情勢	・イギリス、フランス、ドイツ、ロシア、アメリカの国内情勢を理解する。	4
7	列強による世界分割	・ヨーロッパ諸国によるアフリカ、太平洋地域、中国への進出の様子を理解する。	4
8	諸民族の抵抗運動 【1学期期末考査】	・ヨーロッパ諸国の進出を受けたアジア地域の民族運動、及び改革の動きを、日本の動向を踏まえて理解する。	6
9	第一次世界大戦と世界	・第一次世界大戦の原因や性格、戦争がもたらした世界の変化や、大戦中にロシアで社会主義革命がおこったことを理解する。 ・第一次世界大戦後の国際社会の枠組みの特色、アジア諸地域の民族主義運動の高まりを理解する。	9
10	第二次世界大戦と世界 【2学期中間考査】	・世界恐慌が国際秩序に与えた影響と各国の対応、大衆社会化現象と関連したファシズムの台頭、及び中国をめぐる国際情勢と関連した日本の動向を理解する。 ・第二次世界大戦について、関係諸国の動向や被害の甚大さ、戦争がのちの国際政治や日本に与えた影響を理解する。	10
11	[第6章] 三つの世界の形成	・20世紀中頃以降の世界の歴史に触れ、米ソ二陣営の形成と第三世界諸国の様子といった、現在の世界に影響を与えてきた国際関係を理解する。	
12	東西対立と両陣営の形成 【2学期期末考査】	・国際連合の理念と組織を理解する。 ・米ソ二陣営の形成、中華人民共和国の成立、及び朝鮮戦争の展開、及び冷戦構造の特色を理解する。	5
1	ヨーロッパ・日本の復興	・ヨーロッパの経済復興と日本の高度経済成長を理解する。	3
2	アジア・アフリカ・ラテンアメリカの自立と課題	・第二次世界大戦後に独立したアジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国の動向を理解する。	4
3	米ソ両大国の動揺 【学年末考査】	・キューバ危機や中国とソ連の対立、ベトナム戦争などを背景にしたアメリカとソ連の関係の変化を理解する。	5

公民 科 1 年		現代社会		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	現代社会	対象	スポーツ	コース	単位数 2 単位
教科書	『現代社会』		出版社 東京書籍		
副教材	『ライブ! 現代社会 2020』 (帝国書院)		『要点マスター現代社会演習ノート』 (東京書籍)		

1 学習の到達目標

<p>①人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断する力を養う。</p> <p>②自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。</p>
--

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代社会の基本的問題と人間に関わる事項に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考察しようとする態度と平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用して学び方を身に付けている。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時 間 数
4 月	ガイダンス (学習方法習得体験学習) 第2章 日本国憲法と民主政治	・年間進捗を確認し、・体験学習を通じて学習方法を学ぶ	1 学期 20 時間
5 月	1 民主政治とは (1学期中間テスト)	①民主政治の成立 ②基本的人権の確立 ③世界の政治体制 民主政治が生まれた経緯や背景、権力分立、議会制民主主義について理解し、基本的人権と法の支配の意義、人権の歴史的展開や国際化について理解する。また世界の政治体制について学び、諸問題について考察する。	
6 月	2 日本国憲法の 基本原理	①日本国憲法と三つの原理 ②基本的人権の保障 (1) (2) ③新しい人権と人権保障の進展 ④平和主義と安全保障 大日本帝国憲法と日本国憲法を比較し、日本国憲法の三大原理について理解する。様々な基本的人権の意義と内容について理解し、新しい人権について考え、人権保障の進展と課題について考察する。また平和主義、安全保障の関係についてさまざまな角度から考察する。	
7 月	(1学期期末テスト)		
8 月		①国会と立法 ②内閣と行政 ③裁判所と司法 ④地方自治 三権の相互関係について理解し、さらに国会、内閣、裁判所が持つ役割と権限について学び、行政にかかわる課題について考察する。また司法権の意義と裁判員制度などの司法制度改革について理解する。地方自治の意義と役割、権限について理解し、住民の政治参加の意義について考察する。	
9 月	3 日本政治機構		
10 月	(2学期中間テスト)		
11 月	4 現代政治の 特質と課題	①選挙のしくみと課題 ②政党と利益集団 ③世論と政治参加 近代選挙の四原則や日本の選挙制度の仕組み、政党や利益集団の意義と役割、政治資金について理解し、世論のもつ意義や、大衆の政治意識について考え、政治参加に対する姿勢を養う。	
12 月	(2 期期末テスト)		
1 月	第5章 国際社会と人類の課題	①国際社会の特質 ②国際紛争を避ける仕組み ③国際連合と安全保障 ④国際連合の役割と課題 ⑤冷戦とその後の世界 ⑥軍縮への取り組み 国際社会の動向に触れながら、人権、国家主権、領土に関する国際法の意義や人種・民族問題について考察する。核兵器と軍縮問題、我が国の安全保障と防衛について理解し、国際平和や国際協力の必要性和国際組織の役割について考え、国際社会における日本の果たすべき役割について考える。	
2 月	1 国際政治の 仕組みと動向		
3 月	(3 学期期末テスト)		
			3 学期 20 時間

※理解度やその他都合の為、省略や変更、前後することもありうる。

地歴 科 1 年 世界史A 年間授業計画 (シラバス)						
科目名	世界史A	対象	進学 I・II	コース	単位数	2 単位
教科書	要説 世界史 (改訂版)			出版社	山川出版社	
副教材	世界史A副読本 (山川出版社)		最新世界史図説タペストリー [十八訂版] (帝国書院)		ゼミナール世界史 (浜島書店)	

1 学習の到達目標

① 世界の歴史に関する興味・関心を高め、意欲的に学習する態度を育成する。
② 世界の歴史の大きな枠組みと展開を、地理的条件や日本の歴史と関連付けて理解する。
③ 世界の歴史の理解を踏まえて、現代の人類が直面する課題を様々な観点から考察する。
④ 世界の歴史の理解を踏まえて、日本やアジア地域への理解の上に、他国、他地域との協調関係を築いていく態度を育成する。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノート提出	学習活動における 発言内容 定期考査 ノート提出	定期考査 課題提出	定期考査 課題提出

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・ノート提出・課題提出など) 2割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容とねらい	時間数
4	ガイダンス	・「学習のねらい」「授業の概要」「評価方法」について説明。	1
	学習方法習得体験学習	・世界史の学習方法を体得する。	1
	[序章] 先史の世界	・人類が自然環境に適応しながら進化したこと、及びその過程を理解する。	2
5	[第1章] オリエントと地中海世界	・人類が自然環境に適応しながら農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きなオリエント・地中海世界を形成したことを理解する。	

6	古代オリエント世界 【一学期中間考査】	・西アジア世界の地理的特質、オリエント文明、及びイラン人の活動に触れ、西アジア世界の形成過程を理解する。	8
7	ギリシア世界 【一学期期末考査】	・地中海一帯の地理的特質、エーゲ文明、ギリシア文明（アテネを中心とするポリスの政治と文化）、及びヘレニズム時代に触れ、地中海世界の形成過程を理解する。	9
8 9	ローマ世界	・都市国家ローマの形成と、地中海の周辺諸地域を征服し大帝國を建設した過程、及びローマ文化を理解する。 ・キリスト教の成立とその拡大について理解する。	9
10	【二学期中間考査】		
11	[第2章] アジア・アメリカの古代文明	・人類が自然環境に適応しながら農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな南アジア・東南アジア・東アジア世界を形成したことを理解する。	
11	インドの古典文明	・南アジアの地理的特質、インダス文明、アーリヤ人の進出以後の南アジアの文化、社会、国家の発展に触れ、南アジア世界の形成過程を理解する。	7
12	東南アジアの諸文明 【二学期期末考査】	・東南アジアの地理的特質、国家形成に触れ、東南アジア世界の形成過程を理解する。	3
1	中国の古典文明	・東アジアの地理的特質、中華文明の起源と秦・漢帝國に触れ、日本を含む東アジア世界の形成過程を理解する。	9
2	南北アメリカ文明	・先住民による南北アメリカ文明の形成とその特色を理解する。	
	[第3章] 内陸アジアと東アジア世界の形成	・人類が自然環境に適応しながら農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな内陸アジア・東アジア世界を形成したことを理解する。	
3	遊牧民の社会と国家	・内陸アジアの地理的特質、ここに出現した遊牧民とその文化の動向を、オアシス民の活動とともに理解する。	2
	北方民族の活動と中国の分裂 【三学期期末考査】	・遊牧民の華北進出と華北住民の江南への移住、中国の魏晉南北朝時代、朝鮮と日本の国家形成に触れ、日本を含む内陸アジア・東アジア世界の形成過程を理解する。	5

公民 科 1 年		現代社会		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	現代社会	対象	進 学	コース	単位数 2 単位
教科書	『現代社会』		出版社 東京書籍		
副教材	『ライブ! 現代社会 2020』 (帝国書院)		『要点マスター現代社会演習ノート』 (東京書籍)		

1 学習の到達目標

<p>①人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断する力を養う。</p> <p>②自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。</p>
--

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代社会の基本的問題と人間に関わる事項に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考察しようとする態度と平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用して学び方を身に付けている。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時 間 数
4 月	ガイダンス (学習方法習得体験学習) 第2章 日本国憲法と民主政治	・年間進捗を確認し、・体験学習を通じて学習方法を学ぶ	1 学期 20 時間
5 月	1 民主政治とは (1学期中間テスト)	①民主政治の成立 ②基本的人権の確立 ③世界の政治体制 民主政治が生まれた経緯や背景、権力分立、議会制民主主義について理解し、基本的人権と法の支配の意義、人権の歴史的展開や国際化について理解する。また世界の政治体制について学び、諸問題について考察する。	
6 月	2 日本国憲法の 基本原理	①日本国憲法と三つの原理 ②基本的人権の保障 (1) (2) ③新しい人権と人権保障の進展 ④平和主義と安全保障 大日本帝国憲法と日本国憲法を比較し、日本国憲法の三大原理について理解する。様々な基本的人権の意義と内容について理解し、新しい人権について考え、人権保障の進展と課題について考察する。また平和主義、安全保障の関係についてさまざまな角度から考察する。	
7 月	(1学期期末テスト)		
8 月		①国会と立法 ②内閣と行政 ③裁判所と司法 ④地方自治 三権の相互関係について理解し、さらに国会、内閣、裁判所が持つ役割と権限について学び、行政にかかわる課題について考察する。また司法権の意義と裁判員制度などの司法制度改革について理解する。地方自治の意義と役割、権限について理解し、住民の政治参加の意義について考察する。	
9 月	3 日本政治機構		
10 月	(2学期中間テスト)		
11 月	4 現代政治の 特質と課題	①選挙のしくみと課題 ②政党と利益集団 ③世論と政治参加 近代選挙の四原則や日本の選挙制度の仕組み、政党や利益集団の意義と役割、政治資金について理解し、世論のもつ意義や、大衆の政治意識について考え、政治参加に対する姿勢を養う。	
12 月	(2 期期末テスト)		
1 月	第5章 国際社会と人類の課題	①国際社会の特質 ②国際紛争を避ける仕組み ③国際連合と安全保障 ④国際連合の役割と課題 ⑤冷戦とその後の世界 ⑥軍縮への取り組み 国際社会の動向に触れながら、人権、国家主権、領土に関する国際法の意義や人種・民族問題について考察する。核兵器と軍縮問題、我が国の安全保障と防衛について理解し、国際平和や国際協力の必要性和国際組織の役割について考え、国際社会における日本の果たすべき役割について考える。	
2 月	1 国際政治の 仕組みと動向		
3 月	(3 学期期末テスト)		
			3 学期 20 時間

※理解度やその他都合の為、省略や変更、前後することもありうる。

地歴 科 1 年 世界史A 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	世界史A	対象	特進	コース	単位数 2 単位
教科書	要説 世界史 (改訂版)		出版社 山川出版社		
副教材	世界史A副読本 (山川出版社) 最新世界史図説タペストリー [十八訂版] (帝国書院) ゼミナール世界史 (浜島書店)				

1 学習の到達目標

① 世界の歴史に関する興味・関心を高め、意欲的に学習する態度を育成する。
② 世界の歴史の大きな枠組みと展開を、地理的条件や日本の歴史と関連付けて理解する。
③ 世界の歴史の理解を踏まえて、現代の人類が直面する課題を様々な観点から考察する能力を育成する。
④ 世界の歴史の理解を踏まえて、日本やアジア地域への理解の上に、他国、他地域との協調関係を築いていく態度を育成する。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノート提出	学習活動における 発言内容 定期考査 ノート提出	定期考査 課題提出	定期考査 課題提出

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・ノート提出・課題提出など) 2割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容とねらい	時間数
4	ガイダンス	・「学習のねらい」「授業の概要」「評価方法」について説明。	1
	学習方法習得体験学習	・世界史の学習方法を体得する。	1
	[序章] 先史の世界	・人類が自然環境に適応しながら進化したこと、及びその過程を理解する。	2
5	[第1章] オリエントと地中海世界	・人類が自然環境に適応しながら農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きなオリエント・地中海世界を形成したことを理解する。	

6	古代オリエント世界 【一学期中間考査】	・西アジア世界の地理的特質、オリエント文明、及びイラン人の活動に触れ、西アジア世界の形成過程を理解する。	8
7	ギリシア世界 【一学期期末考査】	・地中海一帯の地理的特質、エーゲ文明、ギリシア文明（アテネを中心とするポリスの政治と文化）、及びヘレニズム時代に触れ、地中海世界の形成過程を理解する。	9
8 9	ローマ世界	・都市国家ローマの形成と、地中海の周辺諸地域を征服し大帝國を建設した過程、及びローマ文化を理解する。 ・キリスト教の成立とその拡大について理解する。	9
10	【二学期中間考査】		
11	[第2章] アジア・アメリカの古代文明	・人類が自然環境に適応しながら農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな南アジア・東南アジア・東アジア世界を形成したことを理解する。	
11	インドの古典文明	・南アジアの地理的特質、インダス文明、アーリヤ人の進出以後の南アジアの文化、社会、国家の発展に触れ、南アジア世界の形成過程を理解する。	7
12	東南アジアの諸文明 【二学期期末考査】	・東南アジアの地理的特質、国家形成に触れ、東南アジア世界の形成過程を理解する。	3
1	中国の古典文明	・東アジアの地理的特質、中華文明の起源と秦・漢帝國に触れ、日本を含む東アジア世界の形成過程を理解する。	9
2	南北アメリカ文明	・先住民による南北アメリカ文明の形成とその特色を理解する。	
	[第3章] 内陸アジアと東アジア世界の形成	・人類が自然環境に適応しながら農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな内陸アジア・東アジア世界を形成したことを理解する。	
3	遊牧民の社会と国家	・内陸アジアの地理的特質、ここに出現した遊牧民とその文化の動向を、オアシス民の活動とともに理解する。	2
	北方民族の活動と中国の分裂 【三学期期末考査】	・遊牧民の華北進出と華北住民の江南への移住、中国の魏晉南北朝時代、朝鮮と日本の国家形成に触れ、日本を含む内陸アジア・東アジア世界の形成過程を理解する。	5

公民 科 1 年		現代社会		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	現代社会	対象	特 進	コース	単位数 2 単位
教科書	『高等学校 新現代社会 新訂版』			出版社	清水書院
副教材	『政治・経済資料 2020』 (とうほう)		『高等学校 新現代社会 新訂版 ワークノート』 (清水書院)		

1 学習の到達目標

<p>①人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断する力を養う。</p> <p>②自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。</p>
--

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代社会の基本的問題と人間に関わる事項に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考察しようとする態度と平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用して学び方を身に付けている。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4月	ガイダンス (学習方法習得 体験学習) 第2編 現代の民主政治と法	・年間進度を確認する。体験学習を通して、学習方法を学ぶ。 1 政治とは何か 2 現代民主政治の発展 3 世界の政治制度	1 学期 20 時間
5月	第1章 民主社会の成立と憲法	民主社会の成立の過程を理解し、民主社会に主体的に生きる人間としての在り方・生き方について、個人と国家を中心に考察する。さらに、民主政治における世論形成と政治参加の意義について理解する。	
6月	<1学期中間テスト> 第2章 日本国憲法の成立と 基本的人権の保障	1 日本国憲法の成立と三大原理 2 基本的人権の尊重と平等権の保障 3 自由権的基本権の保障 4 社会権的基本権の保障 5 参政権の保障と国務請求権 6 広がる人権、新しい人権 近代民主主義国家の基本的な原理、憲法の基本的な原理を理解し、社会の諸問題を考察させる。また人権の国際化と新しい人権について学び、社会の諸問題について、人権の拡大と新しい人権という観点から考察する。	
7月	第3章 憲法と平和主義	1 日本の平和主義と安全保障 2 日米安全保障条約と日本 日本国憲法の平和主義と日本をめぐる安全保障に関する情勢を理解し、平和主義と国際協調の立場から、日本の安全保障について考察する。	
8月	第4章 現代日本の政治機構と	1 国会の役割と仕組み 2 内閣と行政機関 3 裁判所の役割 4 裁判と裁判員制度	
9月	政治参加	5 地方自治と住民生活 6 政党・選挙と政治参加	
10月	<2学期中間テスト>	国民主権を中心とした立法、行政、司法の仕組みを理解し、三権の課題と国民主権の発展のための改革について学び、より良い制度について考察する。また地方自治や選挙についての知識を身につけさせ、政治参加の意識を高める。	
11月	第5章 国際政治とその仕組み	1 国際社会の成立と国際法 2 国際連合の役割と仕組み 3 国際社会における人権保障 国際法、国際連合、人権諸条約について理解し、国際連合の活動とその課題について考察する。	
12月	第6章 現代の国際社会と日本	1 第二次世界大戦後の国際政治 2 現代世界の政治動向 3 現代の紛争 4 軍縮と大量破壊兵器の廃絶 5 日本外交と国際平和の実現 戦後史についての知識を身につけ、現代の国際社会の課題、安全保障問題などについて、基本的な理解し、今後の国際政治の課題について考察する。 また国際問題の望ましい解決について、幸福、正義、公正の観点から考える。	
1月	<2学期期末テスト>		
2月	第3編 現代の経済 第1章 経済社会とその仕組み	1 市場と経済主体 2 経済成長と景気変動 3 金融とその働き 4 財政とその働き 5 資本主義経済の仕組みとその変容	3 学期 20 時間
3月	<3学期期末テスト>	現代の市場経済、金融・財政の働きや問題について理解し、市場や金融、財政の課題について、幸福、正義、公正の観点から考察する。	

※理解度やその他都合の為、省略や変更、前後することもありうる。

地歴科 2年		日本史B		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	日本史B	対象	スポーツ	コース	単位数 4 単位
教科書	『詳説日本史 改訂版』		出版社 山川出版社		
副教材	『日本史B用語集』 (山川出版社) 『ゼミナール日本史』 (浜島書店)		『詳説日本史図録』 (山川出版)		

1 学習の到達目標

① 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の趣旨	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果そうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	ノート提出 問題集提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・ノート・プリント・問題集など) 2割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容とねらい	時間数
4	ガイダンス (体験学習等) 第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 1 文化のあじまり 2 農耕社会の成立 3 古墳とヤマト政権	日本史学習のモデルスタイル等のレクチャー ・考古学的成果により日々新たな発見が功わる可能性を意識する。 旧石器～古墳の各時代の特徴などを、資料を交えながら学ぶ。 大和政権の発展を、朝鮮半島諸国の動きと関連付けて学ぶ。 資料を用い、文献を踏まえて古代社会に触れる。日本社会に渡来人が果たした役割が大きいことを理解する。	13
5	第2章 律令国家の形成 1 飛鳥の朝廷 2 律令国家への道 1学期中間考査 3 平城京の時代 4 天平文化	聖徳太子の政治、大化の改新以降の政治と律令国家体制のしくみ、奈良時代の政治を史料もまじえて学ぶ。同時に飛鳥・白鳳文化を、資料を活用しながら学ぶ。 天皇中心の中央集権国家建設を目指していることを理解する。 桓武・嵯峨天皇の政治改革の特色と、藤原氏が他氏排斥によって政権を獲得したことを学ぶ。資料を活用しながら、天平・弘仁貞観・国風文化の特色について学ぶ。荘園の発達過程・経緯・構造を学ぶ。	16

6	5 平安王朝の形成 第3章 貴族政治と国風文化 1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士	武士の中央進出の背景を学ぶ。 藤原氏による独裁で安定を迎えたこと。遣唐使の廃止が、中国文化の影響が途絶えたことなどを理解する。	17
7	1学期期末考査 第2部 中世 第4章 中世社会の成立 1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉幕府の成立	後三条天皇の政治が院政へ発展していくこと。平氏政権の誕生、源氏と平氏二大勢力の対立と鎌倉幕府の成立過程について学ぶ。 武士が政権を握るまでに至った背景や影響を理解する。	8
8	学力テスト		1
9	3 武士の社会 4 蒙古襲来と幕府の衰退 5 鎌倉文化 第5章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立	北条氏による執権政治の成立と発展の過程、元寇後の御家人体制の動揺と鎌倉幕府の滅亡、建武の新政から室町幕府の成立と全盛期について学ぶ。 建武の新政を通して鎌倉幕府から室町幕府への過渡期の政治状況を理解する。	16
10	2学期中間考査 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場	6代將軍足利義教の暗殺や8代將軍足利義政の時代の応仁の乱によって、幕府は衰退していった。その原因と背景について学ぶ。 東アジアとの貿易、室町時代の農業・商工業の資料などを通して室町文化について学ぶ。幕府の衰退が、惣村の形成や一揆を引き起こしたこと、室町文化は日本の伝統芸術の源であることを理解する。 各地の戦国大名の支配の特徴を、史料をまじえながら学ぶ。その中から登場した織田信長、豊臣秀吉による天下統一までの過程について学ぶ。	16
11	第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立 1 織豊政権 2 桃山文化 2学期期末考査	幕府の衰退が戦国大名の出現をまねき、信長・秀吉によって戦乱の時代に終止符が打たれたことを理解する。	16
12	3 幕藩体制の成立	初代將軍徳川家康・2代將軍秀忠・3代將軍家光の政治、史料をまじえながら諸制度の特色を学ぶ。江戸初期の外交と鎖国に至るまでの原因・経過・結果・意義について学ぶ。 この時代幕藩体制が確立したこと。鎖国のメリット・デメリットを理解する。	2
1	学力テスト 第7章 幕藩体制の展開 1 幕政の安定	4代家綱・5代綱吉・正徳の治などの政治を学ぶ。 武断政治から文治政治へ転換したこと。財政改革が幕府の今後の課題になることなどを理解する。	11
2	2 経済の発達 3 元禄文化	江戸時代の農業・産業・流通機構や、そのなかから発展した町人文化を学ぶ。 貨幣経済の発達が政治・文化にもたらした影響を理解する。	14
3	3学期期末考査		2
			132

地歴 科 2 年		年間授業計画 (シラバス)			
科目名	地理B	対象	スポーツ コース	単位数	4 単位
教科書	新詳地理B	新詳高等地図	出版社	帝国書院	
副教材	新詳地理資料 COMPLETE 2020 (帝国書院) , チャレンジワーク地理 (学研)				

1 学習の到達目標

① 現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養う
② 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断してその結果や家庭を適切に判断している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追及の方法を理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への姿勢 ・定期テスト ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・小テスト・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス	○1年間の進め方 予習復習について	1
	II-1-1	○営力的な視点からさまざまな地形の分布や成因を理解し、人間生活との関わりを考察する	9
	II-1-2	○気候要素と気候因子の関係から成り立ちを理解し、人間生活への影響を考察する。	10
5	○世界の気候		
	<1学期中間テスト>		
	II-1-3	○日本の地形と気候の特徴とこれらによる自然災害の特徴を理解するとともに、防災のあり方を考察する。	6
	II-1-4	○成因や特徴、地域的な分布を大観し、各事例を考察する。	5
	○環境問題		
6	II-2-2	○農業地域区分やその現状と課題、及び世界の中での日本の課	11

	<p>○世界の農林水産業</p> <p>II-2-3</p> <p>○世界の食糧問題</p> <p><1 学期期末テスト></p>	<p>題を考察する。</p> <p>○世界の食料需給の地域的なかたよりを大観し、発展途上国、先進国、日本についての事例を考察する。</p>	4
7	II-2-4	○エネルギー資源の利用と分布、鉱産資源の分布を考察する。	7
8	○世界のエネルギー・鉱産資源		
9	II-2-5	○資源・エネルギー問題を大観し、その現状を理解するとともに、生産や消費が抱える課題を考察する。	7
	○資源・エネルギー問題		
	II-2-6	○工業の発達や立地、世界の工業地域や、世界の工業の現状と課題、及び日本の工業の課題を考察する。	7
	○世界の工業		
	II-2-7	○現代世界の第3次産業の発展と、世界と日本の観光業の特色を考察する。	4
	○第3次産業		
10	II-2-8	○交通や通信の発達による一体化と地域差を考察する。	5
	○世界を結ぶ交通・通信		
	II-3-1	○世界人口の分布の特色や動態、人口構成や人口転換を考察する。	7
	○世界の人口		
	<2 学期中間テスト>		
	II-3-2	○世界の人口問題を大観し、発展途上国、先進国、日本の人口問題の事例を考察する。	5
	○人口問題		
11	II-3-3	○村落・都市の立地や発達・機能や、日本の都市の特徴を考察する。	6
	○村落と都市		
	II-3-4	○世界の都市・居住問題を大観し、その要因と発生のしくみを、各国の事例をもとに考え、解決策を考察する。	5
	○都市・居住問題		
	II-4-1	○衣食住を取り上げ、それらの分布や地域的差異と世界的な画一化について考察する。	3
	○生活文化		
	III-2-11	○オセアニアの自然、産業、文化などを理解・考察する。	6
	○オセアニア地誌		
12	<2 学期末テスト>		
	III-2-9	○アングロアメリカの自然、産業、文化などを理解・考察する。	6
1	○アングロアメリカ地誌		
	III-2-2	○東アジアの自然、産業、文化などを理解・考察する。	6
2	○東アジア地誌		
	III-2-3	○東南アジアの自然、産業、文化などを理解・考察する。	6
3	○東南アジア地誌		
	<学年末テスト>		

地歴 科 2 年 世界史B 年間授業計画 (シラバス)						
科目名	世界史B	対象	進学 I・II	コース	単位数	3 単位
教科書	詳説世界史B [改訂版]		出版社 山川出版社			
副教材	最新世界史図説タペストリー [十七訂版] (帝国書院) ゼミナール世界史 (浜島書店) 詳説世界史10分間テスト [改訂版] (山川出版社) 世界史B用語集 (山川出版社)					

1 学習の到達目標

① 世界の歴史の大きな枠組みと展開を、諸資料に基づき、地理的条件や日本の歴史と関連付けて構造的に理解する。
② 世界の歴史における文化・文明の多様性・複合性を、諸地域世界の接触や交流に着目して考察する。
③ 世界の歴史の理解を踏まえて、現代社会の特質を様々な要素の関連の中で考察する。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	世界の歴史から課題を見いだし、文化の多様性・複合性や現代社会の特質を多面的・多角的に課題を考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取りたり図表などにまとめたりしている。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノート提出	学習活動における 発言内容 定期考査 単元テスト ノート提出	定期考査 単元テスト	定期考査 単元テスト 課題提出

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割, 平常点 (学習態度・小テスト・ノート・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス 学習方法習得体験学習	・「学習のねらい」「授業の概要」「評価方法」について説明。 ・基礎学力到達度テスト受験を念頭に置き、世界史の学習方法を体得する。	1 1
5	[第3章] 内陸アジア世界・東アジア世界の形成	・日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程に触れ、内陸アジアの遊牧民の社会、漢王朝滅亡後の中国の分裂と北方諸民族の活動、隋・唐両王朝の支配下に成立した東アジア文化圏の特色について理解する。	8

	<p>[第4章] イスラーム世界の形成と発展</p> <p>【一学期中間考査】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム世界の形成と拡大の過程に触れ、イスラーム成立の背景とその特質、アラブ人を中心とする「イスラーム帝国」の発展、トルコ・アフリカ・南アジア・東南アジアのイスラーム化の展開、およびイスラーム文明の特質について理解する。 	1 2
6	<p>[第5章] ヨーロッパ世界の形成と発展</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開の過程に触れ、古典古代文化・キリスト教・ゲルマン人の融合した西ヨーロッパ中世世界の特質、ビザンツ帝国を中心とする東ヨーロッパ世界の発展、商業の発展と十字軍の影響による西ヨーロッパ社会の変容、および中世文化の特色について理解する。 	2 0
7	<p>【一学期期末考査】</p>		
8	<p>[第6章] 内陸アジア世界・東アジア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内陸アジア諸民族と周辺諸地域世界との関わりに触れ、中央アジアの諸民族の動向、唐王朝滅亡後の東アジア世界の変容、およびモンゴル帝国の興亡とその影響について理解する。 	1 2
9	<p>世界の展開</p>		
1 0	<p>【二学期中間考査】</p>		
1 1	<p>[第7章] アジア諸地域の繁栄</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・14世紀から18世紀までのアジア諸地域の動向に触れ、明・清王朝の特色と東アジア世界への影響、およびイスラームを受容したトルコ・イラン・インド・東南アジア各地域の展開について理解する。 	1 8
1 2	<p>【二学期期末考査】</p>		
	<p>[第8章] 近世ヨーロッパ世界の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・15世紀から17世紀までのヨーロッパ世界の動向とアメリカ・アフリカとの関係に触れ、ルネサンスと宗教改革の特質、「大航海時代」の展開とその影響、およびヨーロッパ各地における主権国家体制形成の過程について理解する。 	1 2
1	<p>[第9章] 近世ヨーロッパ世界の展開</p>		
2	<p>[第10章] 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・18世紀から19世紀までのヨーロッパ・アメリカにおける産業社会と国民国家の形成の過程に触れ、産業革命の特色、アメリカ独立革命およびフランス革命の背景と展開、影響について理解する。 	
	<p>【学年末考査】</p>		

地歴 科 2 年		日本史A		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	日本史A	対象	進学Ⅰ・Ⅱ	コース	単位数 1 単位
教科書	高等学校 日本史A	人・くらし・未来		出版社	第一学習社
副教材	補助プリント資料				

1 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ① 近代化を目指した明治政府の政治を理解する。 ② 日清戦争を契機に大陸支配を目指した日本外交を理解する。 ③ 日露戦争と第一次世界大戦を通じて帝国主義戦争を理解する。 ④ 第一次世界大戦後の協調外交と、中国に対する強硬外交を理解する。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果そうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	ノート提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 3回の定期考査8割、平常点（学習態度・小テスト・ノート・課題など）2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス 学習方法習得体験学習	・「学習のねらい」「授業の概要」「評価方法」について説明。	1 1
5	明治初期の外交政策	・明治政府（日本）と朝鮮王国、琉球との関係について触れ、この関係性とその後の外交の基礎になったことを理解する。 ・ロシアとの国境策定を通じて、千島全島が日本領になったことを理解する。	5
	日本の朝鮮政策と日清戦争	・日清戦争の背景と経過について触れ、このできごとが日本の大陸進出の契機となったことを理解する。	2

6	日英同盟と日露戦争	・ロシアの南下政策と日本の大陸進出が対立し戦争に至る過程を理解する。	4
7	【一学期期末考査】		
8	韓国併合と日本の満州進出	・日本による朝鮮半島支配と中国東北地方への進出について触れ、日本の動向が欧米列強に警戒感を与えたことを理解する。	3
9	第一次世界大戦と日本	・第一次世界大戦の背景と、日本の参戦を理解する。	3
10	ロシア革命	・ロシア革命の背景と、革命が及ぼした影響を理解する。	3
11			
12	大戦後のパリ講和会議	・パリ講和会議と中国、朝鮮の民族意識の高まりを理解する。	3
	【二学期期末考査】		
1	第一次大戦後の協調外交	・ワシントン会議で軍備制限や約束され、協調外交が進展したことを理解する。	4
2	日本外交の行き詰まり	・第一次世界大戦中の日本外交が強硬姿勢に変化したこと、および関東軍による中国支配が進展したことを理解する。	4
3	【三学期期末考査】		

地歴 科 2 年		日本史B		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	日本史B	対象	進学文系	コース	単位数 4 単位
教科書	『詳説日本史 改訂版』		出版社 山川出版社		
副教材	『日本史B用語集』 (山川出版社) 『ゼミナール日本史』 (浜島書店)		『詳説日本史図録』 (山川出版)		

1 学習の到達目標

<p>① 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。</p> <p>② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。</p> <p>③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。</p>
--

2 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の趣旨	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果そうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	ノート提出 問題集提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・ノート・プリント・問題集など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時 間 数
4	ガイダンス (体験学習等) 第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 1 文化のまじまり 2 農耕社会の成立 3 古墳とヤマト政権	日本史学習のモデルスタイル等のレクチャー ・考古学的成果により日々新たな発見が功わる可能性を意識する。 旧石器～古墳の各時代の特徴などを、資料を交えながら学ぶ。 大和政権の発展を、朝鮮半島諸国の動きと関連付けて学ぶ。 資料を用い、文献を踏まえて古代社会に触れる。日本社会に渡来人が果たした役割が大きいことを理解する。	13
5	第2章 律令国家の形成 1 飛鳥の朝廷 2 律令国家への道 1学期中間考査 3 平城京の時代 4 天平文化	聖徳太子の政治、大化の改新以降の政治と律令国家体制のしくみ、奈良時代の政治を史料もまじえて学ぶ。同時に飛鳥・白鳳文化を、資料を活用しながら学ぶ。 天皇中心の中央集権国家建設を目指していることを理解する。 桓武・嵯峨天皇の政治改革の特色と、藤原氏が他氏排斥によって政権を獲得したことを学ぶ。資料を活用しながら、天平・弘仁貞観・国風文化の特色について学ぶ。荘園の発達過程・経緯・構造を学ぶ。	16

6	5 平安王朝の形成 第3章 貴族政治と国風文化 1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士	武士の中央進出の背景を学ぶ。 藤原氏による独裁で安定を迎えたこと。遣唐使の廃止が、中国文化の影響が途絶えたことなどを理解する。	17
7	1学期期末考査 第2部 中世 第4章 中世社会の成立 1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉幕府の成立	後三条天皇の政治が院政へ発展していくこと。平氏政権の誕生、源氏と平氏二大勢力の対立と鎌倉幕府の成立過程について学ぶ。 武士が政権を握るまでに至った背景や影響を理解する。	8
8	学力テスト		1
9	3 武士の社会 4 蒙古襲来と幕府の衰退 5 鎌倉文化 第5章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立	北条氏による執権政治の成立と発展の過程、元寇後の御家人体制の動揺と鎌倉幕府の滅亡、建武の新政から室町幕府の成立と全盛期について学ぶ。 建武の新政を通して鎌倉幕府から室町幕府への過渡期の政治状況を理解する。	16
10	2学期中間考査 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場	6代將軍足利義教の暗殺や8代將軍足利義政の時代の応仁の乱によって、幕府は衰退していった。その原因と背景について学ぶ。 東アジアとの貿易、室町時代の農業・商工業の資料などを通して室町文化について学ぶ。幕府の衰退が、惣村の形成や一揆を引き起こしたこと、室町文化は日本の伝統芸術の源であることを理解する。 各地の戦国大名の支配の特徴を、史料をまじえながら学ぶ。その中から登場した織田信長、豊臣秀吉による天下統一までの過程について学ぶ。	16
11	第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立 1 織豊政権 2 桃山文化 2学期期末考査	幕府の衰退が戦国大名の出現をまねき、信長・秀吉によって戦乱の時代に終止符が打たれたことを理解する。	16
12	3 幕藩体制の成立	初代將軍徳川家康・2代將軍秀忠・3代將軍家光の政治、史料をまじえながら諸制度の特色を学ぶ。江戸初期の外交と鎖国に至るまでの原因・経過・結果・意義について学ぶ。 この時代幕藩体制が確立したこと。鎖国のメリット・デメリットを理解する。	2
1	学力テスト 第7章 幕藩体制の展開 1 幕政の安定	4代家綱・5代綱吉・正徳の治などの政治を学ぶ。 武断政治から文治政治へ転換したこと。財政改革が幕府の今後の課題になることなどを理解する。	11
2	2 経済の発達 3 元禄文化	江戸時代の農業・産業・流通機構や、そのなかから発展した町人文化を学ぶ。 貨幣経済の発達が政治・文化にもたらした影響を理解する。	14
3	3学期期末考査		2
			132

地歴 科 2 年			年間授業計画 (シラバス)		
科目名	地理B	対象	進学 コース	単位数	4 単位
教科書	新詳地理B	新詳高等地図	出版社	帝国書院	
副教材	新詳地理資料 COMPLETE 2020 (帝国書院) , チャレンジワーク地理 (学研)				

1 学習の到達目標

① 現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養う
② 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断してその結果や家庭を適切に判断している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追及の方法を理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への姿勢 ・定期テスト ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・小テスト・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数	
4	ガイダンス	○1年間の進め方 予習復習について	1	
5	II-1-1 ○世界の地形	○営力的な視点からさまざまな地形の分布や成因を理解し、人間生活との関わりを考察する	9	
	II-1-2 ○世界の気候	○気候要素と気候因子の関係から成り立ちを理解し、人間生活への影響を考察する。	10	
	<1学期中間テスト>			
	II-1-3 ○日本の自然の特徴や人々の生活	○日本の地形と気候の特徴とこれらによる自然災害の特徴を理解するとともに、防災のあり方を考察する。	6	
	II-1-4 ○環境問題	○成因や特徴、地域的な分布を大観し、各事例を考察する。	5	

6	II-2-2 ○世界の農林水産業 II-2-3 ○世界の食糧問題 <1 学期期末テスト>	○農業地域区分やその現状と課題, 及び世界の中での日本の課題を考察する。 ○世界の食料需給の地域的なかたよりを大観し, 発展途上国, 先進国, 日本についての事例を考察する。	11 4
7	II-2-4	○エネルギー資源の利用と分布, 鉱産資源の分布を考察する。	7
8	○世界のエネルギー・鉱産資源		
9	II-2-5 ○資源・エネルギー問題 II-2-6 ○世界の工業 II-2-7 ○第3次産業	○資源・エネルギー問題を大観し, その現状を理解するとともに, 生産や消費が抱える課題を考察する。 ○工業の発達や立地, 世界の工業地域や, 世界の工業の現状と課題, 及び日本の工業の課題を考察する。 ○現代世界の第3次産業の発展と, 世界と日本の観光業の特色を考察する。	7 7 4
10	II-2-8 ○世界を結ぶ交通・通信 II-3-1 ○世界の人口 <2 学期中間テスト>	○交通や通信の発達による一体化と地域差を考察する。 ○世界人口の分布の特色や動態, 人口構成や人口転換を考察する。	5 7
	II-3-2 ○人口問題	○世界の人口問題を大観し, 発展途上国, 先進国, 日本の人口問題の事例を考察する。	5
11	II-3-3 ○村落と都市 II-3-4 ○都市・居住問題 II-4-1 ○生活文化 III-2-11 ○オセアニア地誌	○村落・都市の立地や発達・機能や, 日本の都市の特徴を考察する。 ○世界の都市・居住問題を大観し, その要因と発生のしくみを, 各国の事例をもとに考え, 解決策を考察する。 ○衣食住を取り上げ, それらの分布や地域的差異と世界的な画一化について考察する。 ○オセアニアの自然, 産業, 文化などを理解・考察する。	6 5 3 6
12	<2 学期末テスト>		
1	III-2-9 ○アングロアメリカ地誌	○アングロアメリカの自然, 産業, 文化などを理解・考察する。	6
2	III-2-2 ○東アジア地誌	○東アジアの自然, 産業, 文化などを理解・考察する。	6
3	III-2-3 ○東南アジア地誌 <学年末テスト>	○東南アジアの自然, 産業, 文化などを理解・考察する。	6

公民 科 2 年		倫理		年間授業計画 (シラバス)		
科目名	倫理	対象	進学文系	コース	単位数	2 単位
教科書	高等学校新倫理新訂版			出版社	清水書院	
副教材	高等学校新倫理新訂版ワークノート・最新図説倫理					

1 学習の到達目標

<p>① 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深める。</p> <p>② 人格形成に努める実践的意欲を高める。</p> <p>③ 他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。</p>
--

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関わる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探求するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、自己形成に生かす知識として身に付けている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト ワークシート レポート ノート提出 グループワーク 観察など 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期テスト ワークシート レポート ノート提出 グループワーク 観察など 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期テスト レポート グループワーク 観察など 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期テスト レポート グループワーク 観察など

②成績評価の方法

- A. 定期考査の点数8割
- B. 平常点20点
 - ・ノート記入を含めた授業態度や出席状況
 - ・学期ごとのワーク提出、課題提出等

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	科目・年間進度及び評価について (学習方法習得体験授業)	初めて「倫理」を学ぶにあたっての説明と体験学習	1
	第1編現代に生きる自己の課題	人間とは何か。青年期の意義や心理について考える	4
	第1章人間とは何か		
	第2章青年期の課題と自己形成	自己実現に向けた青年期の課題について考える	
5	第2編 人間としての自覚と生き方		
	第1章 人生における哲学	・単なる知識の羅列に終わることなく、「生き方」の問題を考える	5
	1 神話から哲学へ	・神話・自然哲学・ソフィスト	
	2 ギリシャの思想	・ソクラテス・プラトン・アリストテレス	
	1学期中間試験 (P. 6～35)	・ゼノン・エピクロス	
	3ヘレニズム時代の思想		
	第2章 人生における宗教		
6	第1節 キリスト教	・ユダヤ教・キリスト教・イスラームの基礎的内容を学習し西洋人の宗教観を理解する。細部には立ち入らず、それぞれの宗教を生み出した背景や西洋人の考え方などを理解し正しい宗教観を身に付ける。	4
	1 ユダヤ教		
	2 キリスト教		
	3 世界宗教への展開		
	第2節 イスラーム		1
	第3節 仏教	・仏教の基礎を学習し、東洋人の宗教観を理解する。	5
	1 バラモン教	仏教の根本的な考え方を理解し西洋の宗教観との相違点についても把握する。	
	2 仏陀の思想		
	3 仏教のその後の展開		
	1学期期末試験 (P.35～60)	・儒家・道家の中国思想の学習を通して東洋における人間関係のあり方や道徳観の考え方を理解する。	
7	第2編 第3章 人生の知恵		5
	1 孔子と儒家の思想		
	2 儒教の展開		
	3 道家の思想		
8	第4章 人生における芸術	プリントを活用し、芸術と人生の価値や方向づけについての関連性を考える。	1
9	第3編 現代社会と倫理		
	第1章 現代の特質と倫理的課題		2
	第2章 現代に生きる人間の倫理		
	第1節 人間の尊厳	近代についての理解を図り、二つのR(ルネサンス・宗教改革=Reformation)についての導入とする。	7
	1 自己肯定の精神		
	2 宗教観の転換	・二つのR(ルネサンス・宗教改革)を経て、近代合理主義精神が芽生えたことを理解する。	
	3 人間の偉大と限界	・宗教戦争を背景に登場してきたモラリストを通して人言の在り方・生き方について考える。	
	ルネサンス		
	宗教改革		
	モラリスト		
10	2学期中間考査 (P. 61～89)		

11	<p>第2節 自然や科学技術とのかかわり</p> <p>1 自然への目と科学的なものもの見方</p> <p>近代科学の誕生</p>	<ul style="list-style-type: none"> 近代西洋における合理的・科学的精神を理解し、かつ東洋思想との相違についても考える。 	6
	<p>経験論・合理論</p> <p>第3節 民主社会における人間の在り方</p> <p>社会契約説</p>	<ul style="list-style-type: none"> 近代西洋哲学における経験論・合理論の比較を通して思想内容の違いを理解させる。 	2
	<p>第4節 自己実現と幸福</p> <p>ドイツ観念論</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市民革命による絶対王政の打破と民主主義社会の歩みを、社会契約説を通して理解する。 自律としての自由カント/善意志と目的の国 自由や人格の尊厳の意味について考えよう。自己実現と自由 	9
12	<p>2学期期末考査 (P. 90~109)</p>	<ul style="list-style-type: none"> カントとヘーゲルの思想の違いを理解する。 ・ ・最大多数の最大幸福 ベンサム/不満足なソクラテス ミル 	
1	<p>功利主義</p> <p>プラグマティズム</p> <p>第5節 個人と社会との関わり</p> <p>社会主義</p>	<ul style="list-style-type: none"> 社会の進歩改善を目指した思想家の幸福感を考えよう。 プラグマティズム/民主主義の実現と幸福デューイ 人間疎外の原因 マルクス//唯物史観 空想的社会主義・科学的社会主義・修正マルクス主義について段階的に理解を図る。 	9
2	<p>実存主義</p>	<p>自己を見つめる キルケゴール/実存的交わりヤスパース</p> <p>ニヒリズムを超えて/神の死と超人 ニーチェ/死への存在</p> <p>ハイデツガー</p> <ul style="list-style-type: none"> 内面的な主体性の回復を目指した思想家の思想を考える。 孤独な実存に目覚め、他者との連携を図る重要性を知る。 本来的自己を回復し、疎外を克服する大切さを知る。 <p>自由と責任 サルトル</p>	
3	<p>学年末考査 (P. 110~139)</p>	<p>実践演習(プリント)</p>	2

地歴科 2年 世界史B 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	世界史B	対象	特進	コース	単位数 4 単位
教科書	詳説世界史B [改訂版]		出版社 山川出版社		
副教材	最新世界史図説タペストリー [十八訂版] (帝国書院)		ゼミナール世界史 (浜島書店)		
	短期攻略 共通テスト世界史B [改訂版] (駿台文庫)		世界史B用語集 (山川出版社)		

1 学習の到達目標

① 世界の歴史の大きな枠組みと展開を、諸資料に基づき、地理的条件や日本の歴史と関連付けて構造的に理解する。
② 世界の歴史における文化・文明の多様性・複合性を、諸地域世界の接触や交流に着目して考察する。
③ 世界の歴史の理解を踏まえて、現代社会の特質を様々な要素の関連の中で考察する。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代社会の特質を多面的・多角的に課題を考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取りたり図表などにまとめたりしている。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノート提出	学習活動における 発言内容 定期考査 単元テスト ノート提出	定期考査 単元テスト	定期考査 単元テスト 課題提出

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割, 平常点 (学習態度・小テスト・ノート・課題など) 2割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容とねらい	時間数
4	ガイダンス 学習方法習得体験学習	・「学習のねらい」「授業の概要」「評価方法」について説明。 ・基礎学力到達度テスト受験を念頭に置き、世界史の学習方法を体得する。	1 1
5	[第3章] 内陸アジア世界・東アジア世界の形成	・日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程に触れ、内陸アジアの遊牧民の社会、漢王朝滅亡後の中国の分裂と北方諸民族の活動、隋・唐両王朝の支配下に成立した東アジア文化圏の特色について理解する。	1 2

	<p>[第4章] イスラーム世界の形成と発展</p> <p>【一学期中間考査】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム世界の形成と拡大の過程に触れ、イスラーム成立の背景とその特質、アラブ人を中心とする「イスラーム帝国」の発展、トルコ・アフリカ・南アジア・東南アジアのイスラーム化の展開、およびイスラーム文明の特質について理解する。 	15
6	<p>[第5章] ヨーロッパ世界の形成と発展</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開の過程に触れ、古典古代文化・キリスト教・ゲルマン人の融合した西ヨーロッパ中世世界の特質、ビザンツ帝国を中心とする東ヨーロッパ世界の発展、商業の発展と十字軍の影響による西ヨーロッパ社会の変容、および中世文化の特色について理解する。 	22
7	<p>【一学期期末考査】</p>		
8	<p>[第6章] 内陸アジア世界・東アジア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内陸アジア諸民族と周辺諸地域世界との関わりに触れ、中央アジアの諸民族の動向、唐王朝滅亡後の東アジア世界の変容、およびモンゴル帝国の興亡とその影響について理解する。 	14
9	<p>世界の展開</p>		
10	<p>【二学期中間考査】</p>		
11	<p>[第7章] アジア諸地域の繁栄</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・14世紀から18世紀までのアジア諸地域の動向に触れ、明・清王朝の特色と東アジア世界への影響、およびイスラームを受容したトルコ・イラン・インド・東南アジア各地域の展開について理解する。 	20
12	<p>【二学期期末考査】</p>		
	<p>[第8章] 近世ヨーロッパ世界の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・15世紀から17世紀までのヨーロッパ世界の動向とアメリカ・アフリカとの関係に触れ、ルネサンスと宗教改革の特質、「大航海時代」の展開とその影響、およびヨーロッパ各地における主権国家体制形成の過程について理解する。 	15
1	<p>[第9章] 近世ヨーロッパ世界の展開</p>		
2	<p>[第10章] 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・18世紀から19世紀までのヨーロッパ・アメリカにおける産業社会と国民国家の形成の過程に触れ、産業革命の特色、アメリカ独立革命およびフランス革命の背景と展開、影響について理解する。 	11
	<p>【学年末考査】</p>		

地歴 科 2 年		日本史A		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	日本史A	対象	特進	コース	単位数 1 単位
教科書	高等学校 日本史A	人・くらし・未来		出版社	第一学習社
副教材	補助プリント資料				

1 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ① 近代化を目指した明治政府の政治を理解する。 ② 日清戦争を契機に大陸支配を目指した日本外交を理解する。 ③ 日露戦争と第一次世界大戦を通じて帝国主義戦争を理解する。 ④ 第一次世界大戦後の協調外交と、中国に対する強硬外交を理解する。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果そうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	ノート提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 3回の定期考査8割, 平常点 (学習態度・小テスト・ノート・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス 学習方法習得体験学習	・「学習のねらい」「授業の概要」「評価方法」について説明。	1 1
5	明治初期の外交政策	・明治政府 (日本) と朝鮮王国、琉球との関係について触れ、この関係性とその後の外交の基礎になったことを理解する。 ・ロシアとの国境策定を通じて、千島全島が日本領になったことを理解する。	5
	日本の朝鮮政策と日清戦争	・日清戦争の背景と経過について触れ、このできごとが日本の大陸進出の契機となったことを理解する。	2

6	日英同盟と日露戦争	・ロシアの南下政策と日本の大陸進出が対立し戦争に至る過程を理解する。	4
7	【一学期期末考査】		
8	韓国併合と日本の満州進出	・日本による朝鮮半島支配と中国東北地方への進出について触れ、日本の動向が欧米列強に警戒感を与えたことを理解する。	3
9	第一次世界大戦と日本	・第一次世界大戦の背景と、日本の参戦を理解する。	3
10	ロシア革命	・ロシア革命の背景と、革命が及ぼした影響を理解する。	3
11			
12	大戦後のパリ講和会議	・パリ講和会議と中国、朝鮮の民族意識の高まりを理解する。	3
	【二学期期末考査】		
1	第一次大戦後の協調外交	・ワシントン会議で軍備制限や約束され、協調外交が進展したことを理解する。	4
2	日本外交の行き詰まり	・第一次世界大戦中の日本外交が強硬姿勢に変化したこと、および関東軍による中国支配が進展したことを理解する。	4
3	【三学期期末考査】		

地歴 科 2 年 日本史B 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	日本史B	対象	特進文系	コース	単位数 5 単位
教科書	『詳説日本史B 改訂版』 出版社 山川出版社				
副教材	『日本史B用語集』 (山川出版社) 『詳説日本史図録』 (山川出版) 『ウイニングコンパス日本史の整理と演習(2020年)』 (とうほう)				

1 学習の到達目標

① 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の趣旨	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果そうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	ノート提出 問題集提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・ノート・プリント・問題集など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス (体験学習等) 第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 1 文化のあじまり 2 農耕社会の成立 3 古墳とヤマト政権	日本史学習のモデルスタイル等のレクチャー 考古学的成果により日々新たな発見が訪れる可能性を意識する。 旧石器～古墳の各時代の特徴などを、資料を交えながら学ぶ。 大和政権の発展を、朝鮮半島諸国の動きと関連付けて学ぶ。 資料を用い、文献を踏まえて古代社会に触れる。日本社会に渡来人が果たした役割が大きいことを理解する。	15
5	第2章 律令国家の形成 1 飛鳥の朝廷 2 律令国家への道 3 平城京の時代 1学期中間考査 4 天平文化	聖徳太子の政治、大化の改新以降の政治と律令国家体制のしくみ、奈良時代の政治を史料もまじえて学ぶ。同時に飛鳥・白鳳文化を、資料を活用しながら学ぶ。 天皇中心の中央集権国家建設を目指していることを理解する。 桓武・嵯峨天皇の政治改革の特色と、藤原氏が他氏排斥によって政権を獲得したことを学ぶ。資料を活用しながら、天平・弘仁貞観・国風文化の特色について学ぶ。荘園の発達過程・経緯・構造を学ぶ。	18
6	5 平安王朝の形成 第3章 貴族政治と国風文化 1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士 第2部 中世 第4章 中世社会の成立	武士の中央進出の背景を学ぶ。 藤原氏による独裁で安定を迎えたこと。遣唐使の廃止が、中国文化の影響が途絶えたことなどを理解する。 後三条天皇の政治が院政へ発展していくこと。平氏政権の誕生、	20

	1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉幕府の成立	源氏と平氏二大勢力の対立と鎌倉幕府の成立過程について学ぶ。 武士が政権を握るまでに至った背景や影響を理解する。	
7	1学期期末考査 3 武士の社会		10
8	学力テスト		1
9	4 蒙古襲来と幕府の衰退 5 鎌倉文化 第5章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化	北条氏による執権政治の成立と発展の過程、元寇後の御家人体制の動揺と鎌倉幕府の滅亡、建武の新政から室町幕府の成立と全盛期について学ぶ。 建武の新政を通して鎌倉幕府から室町幕府への過渡期の政治状況を理解する。 6代将軍足利義教の暗殺や8代将軍足利義政の時代の応仁の乱によって、幕府は衰退していった。その原因と背景について学ぶ。 東アジアとの貿易、室町時代の農業・商工業の資料などを通して室町文化について学ぶ。幕府の衰退が、惣村の形成や一揆を引き起こしたこと、室町文化は日本の伝統芸術の源であることを理解する。	20
10	2学期中間考査 4 戦国大名の登場 第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立 1 織豊政権 2 桃山文化	各地の戦国大名の支配の特徴を、史料をまじえながら学ぶ。その中から登場した織田信長、豊臣秀吉による天下統一までの過程について学ぶ。 幕府の衰退が戦国大名の出現をまねき、信長・秀吉によって戦乱の時代に終止符が打たれたことを理解する。	20
11	2学期期末考査 3 幕藩体制の成立 第7章 幕藩体制の展開 1 幕政の安定	初代将軍徳川家康・2代将軍秀忠・3代将軍家光の政治、史料をまじえながら諸制度の特色を学ぶ。江戸初期の外交と鎖国に至るまでの原因・経過・結果・意義について学ぶ。 この時代幕藩体制が確立したこと。鎖国のメリット・デメリットを理解する。 4代家綱・5代綱吉・正徳の治などの政治を学ぶ。 武断政治から文治政治へ転換したこと。財政改革が幕府の今後の課題になることなどを理解する。	20
12	2 経済の発達	江戸時代の農業・産業・流通機構や、そのなかから発展した町人文化を学ぶ。	4
1	学力テスト 3 元禄文化	貨幣経済の発達が政治・文化にもたらした影響を理解する。	15
2	第8章幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化	社会・経済の発展により政治・財政改革が盛んに行なわれるが、大塩の乱や天保の改革の失敗により幕府権力が衰退していく過程を学ぶ。 工場制手工業の発達など軽工業における経済の発達と、藩財政の建て直しから雄藩と呼ばれ幕末に反幕勢力の中心となる藩の発生を理解する。 文学は当時の世相をあらわす鏡であった。優れた芸術作品は海外に影響を与えた。洋学は国内の多くの知識人に影響を与え、独自のものをうみだした。儒学や藩校・私塾・寺子屋は教育の発達を促し、多くの人材を輩出したことを理解する。	18
3	3学期期末考査		2
			163

地歴 科 2 年			年間授業計画 (シラバス)		
科目名	地理B	対象	特 進 コース	単位数	3単位
教科書	新詳地理B 新詳高等地図		出版社	帝国書院	
副教材	新編地理資料 2020 (とうほう), '20 新地理の研究 (啓隆社), 地理統計要覧 2020 (二宮書店) 地理B用語集 (山川出版社)				

1 学習の到達目標

① 現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養う
② 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断してその結果や家庭を適切に判断している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追及の方法を理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	・学習活動への姿勢 ・定期テスト ・小テスト	・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト	・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・ワークシート	・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・小テスト・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス	○1年間の進め方 予習復習について	1
	II-1-1 ○世界の地形	○営力的な視点からさまざまな地形の分布や成因を理解し、人間生活との関わりを考察する	7
	II-1-2 ○世界の気候	○気候要素と気候因子の関係から成り立ちを理解し、人間生活への影響を考察する。	8
5	<1 学期中間テスト>		
	II-1-3 ○日本の自然の特徴や人々の生活	○日本の地形と気候の特徴とこれらによる自然災害の特徴を理解するとともに、防災のあり方を考察する。	3

6	II-1-4 ○環境問題	○成因や特徴と対策，地域的な分布を大観し，各事例を考察する。	3
	II-2-2 ○世界の農林水産業	○農業地域区分やその現状と課題，及び世界の中での日本の課題を考察する。	7
	II-2-3 ○世界の食糧問題	○世界の食料需給の地域的なかたよりを大観し，発展途上国，先進国，日本についての事例を考察する。	3
7	<1 学期期末テスト>		
8			
9	II-2-4 ○世界のエネルギー・鉱産資源	○エネルギー資源の利用と分布，鉱産資源の分布を考察する。	5
	II-2-5 ○資源・エネルギー問題	○資源・エネルギー問題を大観し，その現状を理解するとともに，生産や消費が抱える課題を考察する。	5
	II-2-6 ○世界の工業	○工業の発達や立地，世界の工業地域や，世界の工業の現状と課題，及び日本の工業の課題を考察する。	5
10	II-2-7 ○第3次産業	○現代世界の第3次産業の発展と，世界と日本の観光業の特色を考察する。	3
	II-2-8 ○世界を結ぶ交通・通信	○交通や通信の発達による一体化と地域差を考察する。	4
	II-3-1 ○世界の人口	○世界人口の分布の特色や動態，人口構成や人口転換を考察する。	3
	<2 学期中間テスト>		
	II-3-2 ○人口問題	○世界の人口問題を大観し，発展途上国，先進国，日本の人口問題の事例を考察する。	3
11	II-3-3 ○村落と都市	○村落・都市の立地や発達・機能や，日本の都市の特徴を考察する。	5
	II-3-4 ○都市・居住問題	○世界の都市・居住問題を大観し，その要因と発生のしくみを，各国の事例をもとに考え，解決策を考察する。	4
	II-4-1 ○生活文化	○衣食住を取り上げ，それらの分布や地域的差異と世界的な画一化について考察する。	3
	III-2-11 ○オセアニア地誌	○オセアニアの自然，産業，文化などを理解・考察する。	5
12	<2 学期末テスト>		
	III-2-9 ○アングロアメリカ地誌	○アングロアメリカの自然，産業，文化などを理解・考察する。	5
1	III-2-2 ○東アジア地誌	○東アジアの自然，産業，文化などを理解・考察する。	5
2	III-2-3 ○東南アジア地誌	○東南アジアの自然，産業，文化などを理解・考察する。	4
3	III-2-4 ○南アジア地誌	○南アジアの自然，産業，文化などを理解・考察する。	4
	<学年末テスト>		

公民 科 2 年		倫理		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	倫理	対象	特進文系	コース	単位数 2 単位
教科書	高等学校新倫理新訂版			出版社	清水書院
副教材	完全MASTER大学入試共通テスト倫理問題集・最新図説倫理				

1 学習の到達目標

<p>① 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深める。</p> <p>② 人格形成に努める実践的意欲を高める。</p> <p>③ 他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。</p>
--

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関わる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探求するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、自己形成に生かす知識として身に付けている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・ワークシート ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・ワークシート ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

A. 定期考査の点数8割

B. 平常点20点

- ・ノート記入を含めた授業態度や出席状況
- ・学期ごとのワーク提出、課題提出等

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	科目・年間進度及び評価について (学習方法習得体験授業)	初めて「倫理」を学ぶにあたっての説明と体験学習	1
	第1編現代に生きる自己の課題	人間とは何か。青年期の意義や心理について考える	4
	第1章人間とは何か		
	第2章青年期の課題と自己形成	自己実現に向けた青年期の課題について考える	
5	第2編 人間としての自覚と生き方		
	第1章 人生における哲学	・単なる知識の羅列に終わることなく、「生き方」の問題を考える	5
	1 神話から哲学へ	・神話・自然哲学・ソフィスト	
	2 ギリシャの思想	・ソクラテス・プラトン・アリストテレス	
	1学期中間試験 (P. 6～35)	・ゼノン・エピクロス	
	3ヘレニズム時代の思想		
	第2章 人生における宗教		
6	第1節 キリスト教	・ユダヤ教・キリスト教・イスラームの基礎的内容を学習し西洋人の宗教観を理解する。細部には立ち入らず、それぞれの宗教を生み出した背景や西洋人の考え方などを理解し正しい宗教観を身に付ける。	4
	1 ユダヤ教		
	2 キリスト教		
	3 世界宗教への展開		
	第2節 イスラーム		1
	第3節 仏教	・仏教の基礎を学習し、東洋人の宗教観を理解する。	5
	1 バラモン教	仏教の根本的な考え方を理解し西洋の宗教観との相違点についても把握する。	
	2 仏陀の思想		
	3 仏教のその後の展開		
	1学期期末試験 (P.35～60)	・儒家・道家の中国思想の学習を通して東洋における人間関係のあり方や道徳観の考え方を理解する。	
7	第2編 第3章 人生の知恵		5
	1 孔子と儒家の思想		
	2 儒教の展開		
	3 道家の思想		
8	第4章 人生における芸術	プリントを活用し、芸術と人生の価値や方向づけについての関連性を考える。	1
9	第3編 現代社会と倫理		
	第1章 現代の特質と倫理的課題		2
	第2章 現代に生きる人間の倫理		
	第1節 人間の尊厳	近代についての理解を図り、二つのR(ルネサンス・宗教改革=Reformation)についての導入とする。	7
	1 自己肯定の精神		
	2 宗教観の転換	・二つのR(ルネサンス・宗教改革)を経て、近代合理主義精神が芽生えたことを理解する。	
	3 人間の偉大と限界	・宗教戦争を背景に登場してきたモラリストを通して人言の在り方・生き方について考える。	
	ルネサンス		
	宗教改革		
	モラリスト		
10	2学期中間考査 (P. 61～89)		

11	<p>第2節 自然や科学技術とのかかわり</p> <p>1 自然への目と科学的なものもの見方</p> <p>近代科学の誕生</p>	<ul style="list-style-type: none"> 近代西洋における合理的・科学的精神を理解し、かつ東洋思想との相違についても考える。 	6
	<p>経験論・合理論</p> <p>第3節 民主社会における人間の在り方</p> <p>社会契約説</p>	<ul style="list-style-type: none"> 近代西洋哲学における経験論・合理論の比較を通して思想内容の違いを理解させる。 	2
12	<p>第4節 自己実現と幸福</p> <p>ドイツ観念論</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市民革命による絶対王政の打破と民主主義社会の歩みを、社会契約説を通して理解する。 自律としての自由カント/善意志と目的の国 自由や人格の尊厳の意味について考えよう。自己実現と自由ヘーゲル/絶対精神の目的と自由/弁証法/人倫と自由の実現 	9
	<p>2学期期末考査 (P. 90~109)</p>	<ul style="list-style-type: none"> カントとヘーゲルの思想の違いを理解する。 ・ ・最大多数の最大幸福 ベンサム/不満足なソクラテス ミル 	
1	<p>功利主義</p> <p>プラグマティズム</p> <p>第5節 個人と社会との関わり</p> <p>社会主義</p>	<ul style="list-style-type: none"> 社会の進歩改善を目指した思想家の幸福感を考えよう。プラグマティズム/民主主義の実現と幸福デューイ 人間疎外の原因 マルクス//唯物史観 空想的社会主義・科学的社会主義・修正マルクス主義について段階的に理解を図る。 	9
2	<p>実存主義</p>	<p>自己を見つめる キルケゴール/実存的交わりヤスパース</p> <p>ニヒリズムを超えて/神の死と超人 ニーチェ/死への存在</p> <p>ハイデツガー</p> <ul style="list-style-type: none"> 内面的な主体性の回復を目指した思想家の思想を考える。 孤独な実存に目覚め、他者との連携を図る重要性を知る。 ・ 本来的自己を回復し、疎外を克服する大切さを知る。 <p>自由と責任 サルトル</p>	
3	<p>学年末考査 (P. 110~139)</p>	<p>実践演習(プリント)</p>	2

地歴 科 3 年		日本史B		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	日本史B	対象	スポーツ	コース	単位数 4 単位
教科書	『詳説日本史 改訂版』 出版社 山川出版社				
副教材	『日本史B用語集』 (山川出版社) 『プロムナード日本史』 (浜島書店) 『ゼミナール日本史』 (浜島書店)				

1 学習の到達目標

① 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の趣旨	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果そうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	ノート提出 問題集提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・ノート・プリント・問題集など) 2割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容とねらい	時間数
4	ガイダンス (体験学習等) 2 桃山文化 第6章 幕藩体制の確立 3 幕藩体制の成立 第7章 幕藩体制の展開 1 幕政の安定	日本史学習のモデルスタイル等のレクチャー 初代将軍徳川家康・2代将軍秀忠・3代将軍家光の政治、史料をまじえながら諸制度の特色を学ぶ。江戸初期の外交と鎖国に至るまでの原因・経過・結果・意義について学ぶ。 この時代幕藩体制が確立したこと。鎖国のメリット・デメリットを理解する。 4代家綱・5代綱吉・正徳の治などの政治を学ぶ。 武断政治から文治政治へ転換したこと。財政改革が幕府の今後の課題になることなどを理解する。	16
5	2 経済の発達 1学期中間考査 3 元禄文化 第8章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革	江戸時代の農業・産業・流通機構や、そのなかから発展した町人文化を学ぶ。 貨幣経済の発達が政治・文化にもたらした影響を理解する。 元禄文化の特色である現実主義と美証主義の傾向を文学や学問の発達から学習する。享保の改革・寛政の改革・田沼政治の特色をまとめ比較し、その相違を学ぶ。	13

6	2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化	大塩の乱の発生や天保の改革の失敗は幕府権力の衰退を示すことを学習する。古典研究が始まる国学が次第に幕府の指導的理念になっていくこと、および藩校・私塾・寺子屋が教育の発達に大きく役立ったことを学習する。	18
7	1学期期末考査		6
8	学力テスト		1
9	第4部 近代・現代 第9章 近代国家の成立 1 開国と幕末の動乱 2 明治維新と富国強兵 基礎学力到達度テスト	・開国問題と将軍継嗣問題を複雑絡み合い、大名が洋派派と一橋派に分かれ争ったこと、及び桜田門外の変以後、朝廷も巻き込んだ公武合体派と尊王攘夷派に分かれて争った経緯を学習する。 五箇条の誓文、政体書のもつ開明性と五榜の掲示の封建制を比較することにより新政府の特質を学ぶ。 基礎学力到達度テスト対策	18
10	3 立憲国家の成立と日清戦争 2学期中間考査 4 日露戦争と国際関係 5 近代産業の発達 6 近代文化の発達	自由民権運動の思想的背景及びその階級的性格、意義を学ぶ。 大日本帝国憲法の制定過程と内容、及び日本国憲法との相違を学ぶ。 日露戦争は帝国主義国間の対立を背景に戦われたこと、日本国民は開戦無罪論に傾いていったことを学ぶ。 日本資本主義の発展とともに社会問題があらわれたことを学ぶ。 日清戦争後、日本の対外膨張を支える国家主義が思想界の主流になったことを学ぶ。	18
11	第10章 二つの世界大戦とアジア 1 第一次世界大戦と日本 2 ワシントン体制 3 市民生活の変容と大衆文化 4 恐慌の時代 5 軍部の台頭 2学期期末考査	日清戦争後、日本の対外膨張を支える国家主義が思想界の主流になったことを学ぶ。 近代国家の建設とともに西欧文化の影響を受け、文学・美術・建築様式などに新しい傾向が見られるようになったことを学ぶ。	18
12	6 第二次世界大戦 第11章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和 第12章 高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度成長へ 第13章 激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦終結と日本社会の動揺	第一次世界大戦から第二次世界大戦にかけて、変化する国際情勢を学ぶ。 西欧の帝国主義型発展の帰結として植民地争奪戦争が起きた。西欧社会を模範としてきた日本もその対立のなかで力財っていくことを学ぶ。 財閥解体と農地改革が日本の民主化にもつ政治的・経済的・社会的な意義を理解させる。 朝鮮戦争に際して、特需を土台に日本経済の復興が進められ、同時に戦後初期における民主化に逆行するような動きが起きてきたことにも注目させる。 保守一党優位の政治体制がもたらしたものを考えさせる。 経済の高度成長に伴って、国民生活の向上が見られた反面、経済成長のひずみがどのように現れ、どのような社会問題を生み出したか検討させる。 日中共同声明の意義について検討させる。 我々国民は、国家の主権者として、日本の進路を自主的な立場と態度をもって決定すべき重大な責任を担っていることをはっきりと自覚させる。	4
			112

地歴 科 3 年			年間授業計画 (シラバス)		
科目名	地理B	対象	スポーツ コース	単位数	4単位
教科書	新詳地理B	新詳高等地図	出版社	帝国書院	
副教材	新詳地理資料 COMPLETE 2019 (帝国書院) , チャレンジワーク地理 (学研)				

1 学習の到達目標

① 現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養う
② 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断してその結果や家庭を適切に判断している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追及の方法を理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への姿勢 ・定期テスト ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・小テスト・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス	○1年間の進め方 予習復習について	1
	III-2-4 ○南アジア地誌	○南アジアの地誌を多様性に着目して理解する	6
	III-2-5 ○西アジア・中央アジア地誌	○西アジア・中央アジアの地誌を多様性に着目して理解する	6
5	III-2-6 ○アフリカ地誌	○アフリカの地誌を地域性に着目して理解する	6
	<1学期中間テスト>		
	III-2-7	○ヨーロッパの地誌を多様性に着目して理解する	8

6	○ヨーロッパ地誌 Ⅲ-2-8	○ロシアの地誌を地域性に着目して理解する	5
	○ロシア地誌 Ⅲ-2-10	○ラテンアメリカの地誌を地域性に着目して理解する	6
7	○ラテンアメリカ地誌 <1 学期期末テスト>		
8	*基礎学力到達度テスト問題演習	○基礎学力到達度テストに向けての問題演習を行う	14
9	*諸地域の抱える課題について	○諸地域の抱える課題について、系統地理的・地誌的の両面から考察していく	14
10	<2 学期中間テスト>		
11	*諸地域の抱える課題について <2 学期期末テスト>	○諸地域の抱える課題について、系統地理的・地誌的の両面から考察していく	14
12	*諸地域の抱える課題について	○諸地域の抱える課題について、系統地理的・地誌的の両面から考察していく	8

公民 科 3 年		現代社会		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	現代社会	対象	スポーツ	コース	単位数 2 単位
教科書	『現代社会』		出版社 東京書籍		
副教材	ライブ！現代社会 2018 (帝国書院), 要点マスター現代社会演習ノート (東京書籍)				

1 学習の到達目標

<p>①人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断する力を養う。</p> <p>②自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。</p>
--

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代社会の基本的問題と人間に関わる事項に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考察しようとする態度と平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用して学び方を身に付けている。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・小テスト・ノート・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数	
4月	ガイダンス 学習方法習得体験学習 第4章 現代の経済と国民福祉	・学習方法、年間進捗を確認する ・体験学習を通じて学習方法を学ぶ。	1 学期 25 時間	
5月	1 経済のしくみ (1学期中間テスト)	①経済社会の変容 ②現代の企業 ③市場経済のしくみ ④国民所得と経済成長 「産業革命」による技術革新に伴う社会の様々な変化や、企業、市場経済の仕組みについて理解する。価格の働き働きを理解し、独占や寡占、市場の失敗について考察する。経済指標、経済成長について理解し、景気変動について考察する。		
6月	2, 変化する日本経済	⑤金融のしくみと働き ⑥中央銀行の役割と金融の自由化 ⑦政府の役割と財政 金融政策、財政制度について理解し、市場や金融、財政の課題について、幸福、正義、公正の観点から考察させる。金融政策、財政制度について理解し、日本の財政をめぐる諸課題を考察する		
7月	(1学期期末テスト)	①戦後復興と高度経済成長 戦後の日本経済と高度経済成長の要因について理解する。		
8月		②産業構造の転換と国際経済環境の変化 ③経済のバブル化とその後 ④日本経済の現在 ⑤中小企業と農家		
9月	2, 変化する日本経済	戦後の日本経済と高度経済成長の要因について理解する。石油危機を契機とした、産業構造の転換、プラザ合意について理解し、バブル景気発生から崩壊まで、そのしくみや要因、影響、対応について理解する。バブル景気崩壊後の日本経済について考え、日本経済が直面する現状と課題について考察する。 日本の中小企業が抱える問題、農業問題、バブル景気崩壊後の日本経済について学び、日本経済が直面する現状と課題について考える。		
10月	(2学期中間テスト)			
11月	3, 豊かな生活の実現	①自立した消費者への道 ②労働者の権利 ③現代の雇用・労働問題 ④社会保障の役割 ⑤環境保全と循環型社会 消費者の権利と問題点、労働者の権利と問題点について理解し、雇用形態の実態と問題点について理解する。社会保障の意義を考え、日本の社会保障制度と抱える問題点について理解する。日本の公害の歴史、その変遷や対策について考える。		
12月	(2学期期末テスト) 視覚教材・グループ学習等	国際経済の仕組みと動向や現代の諸課題について視聴覚教材やグループ学習を通じて主体的に学ぶ。		2 学期 31 時間

※理解度やその他都合の為、省略や変更、前後することもありうる。

地歴 科 3 年 世界史B 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	世界史B	対象	進学 I・II	コース	単位数 4 単位
教科書	詳説世界史B 出版社 山川出版社				
副教材	世界史図説パーストリー (帝国書院) , ゼミナール世界史 (浜島書店) , 世界史B用語集 (山川出版) , チャレンジワーク (学研)				

1 学習の到達目標

<p>① 世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき、地理的条件や日本の歴史と関連付けなどから理解させる。</p> <p>② 文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を養い、国際社会に主体的に生きる国民としての自覚と資質を養う。</p> <p>③ 世界の歴史の学習を通して客観的で公正なものを見方を育成するとともに、広い視野から歴史を考察させる。</p>
--

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果そうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	ノート提出 問題集	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割、平常点 (学習態度・小テスト・ノート・課題など) 2割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容とねらい	時間数
4	近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 1. 産業革命 2. アメリカ独立革命	・産業革命、アメリカ独立など18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業革命と国民国家の形成を理解する。 範囲・・・ユグノー戦争～フランス革命	1 18
5	1学期中期考査	・フランス革命とナポレオンの政治を通じて、近代思想が	

6	<p>3. フランス革命</p> <p>欧米における近代国民国家の発展</p> <p>1・ウィーン体制の成立</p> <p>2. ヨーロッパの再編と列強体制の緩和</p> <p>3. 南北アメリカの発展</p>	<p>確立したことを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウィーン体制の成立とヨーロッパ諸国の自由主義とナショナリズムの運動を理解する。 ・アメリカ合衆国の領土拡張と南北戦争以後の発展とラテンアメリカの独立を理解する。 	20
7	<p>4. 19世紀の欧米文化</p> <p>1学期期末考査</p> <p>アジア諸地域の動揺</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・西アジアにおけるオスマン帝国の動揺と改革, アラブ諸民族の覚醒, イラン・アフガニスタンの動向を理解する。 ・東南アジア諸国の植民地化の過程を理解する。 ・ヨーロッパ諸国の干渉による清王朝の動揺と近代化改革, 日本の開国と台頭による東アジア国際秩序の再編を理解する。 	
9	<p>1・オスマン帝国支配の動揺とアラブのめざめ</p> <p>2・南アジア・東南アジアの植民地化</p> <p>3・東アジアの激動</p> <p>帝国主義とアジアの民族運動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・帝国主義の特質と, 帝国主義時代における欧米列強諸国の国家・社会の変化を理解する。 ・欧米諸国の支配を受けたアジア諸国の改革と民族運動の形成を理解する。 	20
10	<p>1・帝国主義と列強の展開</p> <p>2・世界分割と列強の対立</p> <p>3. アジア諸国の改革と民族運動</p> <p>2学期中間考査</p>	<p>範囲・・・オスマン帝国の動揺～西アジアの民族運動</p>	
11	<p>二つの世界大戦</p> <p>1・第一次世界大戦とロシア革命</p> <p>2・ヴェルサイユ体制下の欧米諸国</p> <p>3. アジア, アフリカ民族主義の進展</p> <p>4・世界恐慌とファシズム諸国の侵略</p> <p>5・第二次世界大戦</p> <p>冷戦と第三世界の自立</p> <p>2学期期末考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦とロシア革命が国際秩序に大きな変化をもたらし, 20世紀の変動の基点となったことを理解する。 ・国際協調を基調としたヴェルサイユ体制を理解する。 ・中国や東南アジア諸国, 西アジア諸国, アフリカの民族運動の展開を理解する。 ・世界恐慌後, 国際的な緊張が高まる時代を理解する。 ・大戦に至る過程と戦争規模の拡大, 米ソ国際的地位の高まりを理解する。 ・戦後, 米ソを中心とした冷戦体制が成立し, 東西両陣営に世界が分裂したことを理解する。 	19

地歴 科 3 年 日本史A 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	日本史A	対象	進学	コース	単位数 1 単位
教科書	高等学校 日本史A 人・くらし・未来		出版社 第一学習社		
副教材	補助プリント資料				

1 学習の到達目標

我が国の歴史の展開を諸資料に基づき総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果そうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	ノート提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 3回の定期考査8割, 平常点(学習態度・小テスト・ノート・課題など) 2割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容とねらい	時間数
4	ガイダンスおよび満州事変と軍部の台頭	・関東軍による中国東北地方の支配の背景と過程を学び日本の国際的孤立化と太平洋戦争への道を理解する	4
5	三国防共協定と日中戦争	・イタリア、ドイツに接近し三国防共協定を締結し、国際的孤立化の過程を理解する。	3
6		・盧溝橋事件をきっかけに第2次国共合作が成立し宣戦布告なきに日中戦争に突入していく過程を理解する。	3
8	【一学期期末考査】		
9	アメリカとの開戦	・日米交渉の破たん太平洋戦争への過程を理解する	
10	ヨーロッパと太平洋上の戦線拡大	・日本、ドイツ、イタリアの敗色の強まりと連合軍による戦後構想の構築の過程を理解する。	3
			3
11	日本の敗戦 【二学期期末考査】	・ポツダム宣言の受諾によって無条件降伏した日本の戦後を理解する	3

地歴 科 3 年		日本史B		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	日本史B	対象	進学	コース	単位数 5 単位
教科書	『詳説日本史 改訂版』 出版社 山川出版社				
副教材	『日本史B用語集』 (山川出版社) 『プロムナード日本史』 (浜島書店) 『ゼミナール日本史』 (浜島書店) 『チャレンジワーク日本史』 (学研)				

1 学習の到達目標

① 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の趣旨	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果そうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	ノート提出 問題集提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・ノート・プリント・問題集など) 2割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容とねらい	時間数
4	ガイダンス (体験学習等) 2 桃山文化 第6章 幕藩体制の確立 3 幕藩体制の成立 第7章 幕藩体制の展開 1 幕政の安定	日本史学習のモデルスタイル等のレクチャー 初代将軍徳川家康・2代将軍秀忠・3代将軍家光の政治、史料をまじえながら諸制度の特色を学ぶ。江戸初期の外交と鎖国に至るまでの原因・経過・結果・意義について学ぶ。 この時代幕藩体制が確立したこと。鎖国のメリット・デメリットを理解する。 4代家綱・5代綱吉・正徳の治などの政治を学ぶ。 武断政治から文治政治へ転換したこと。財政改革が幕府の今後の課題になることなどを理解する。	20
5	2 経済の発達 <u>1学期中間考査</u> 3 元禄文化 第8章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革	江戸時代の農業・産業・流通機構や、そのなかから発展した町人文化を学ぶ。 貨幣経済の発達が政治・文化にもたらした影響を理解する。 元禄文化の特色である現実主義と美証主義の傾向を文学や学問の発達から学習する。享保の改革・寛政の改革・田沼政治の特色をまとめ比較し、その相違を学ぶ。	16

6	2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化	大塩の乱の発生や天保の改革の失敗は幕府権力の衰退を示すことを学習する。古典研究が始まる国学が次第に幕府の指導的理念になっていくこと、および藩校・私塾・寺子屋が教育の発達に大きく役立ったことを学習する。	2 3
7	1学期期末考査		8
8	学力テスト		1
9	第4部 近代・現代 第9章 近代国家の成立 1 開国と幕末の動乱 2 明治維新と富国強兵 基礎学力到達度テスト	・開国問題と将軍継嗣問題を複雑絡み合い、大名が洋派派と一橋派に分かれ争ったこと、及び桜田門外の変以後、朝廷も巻き込んだ公武合体派と尊王攘夷派に分かれて争った経緯を学習する。 五箇条の誓文、政体書のもつ開明性と五榜の掲示の封建制を比較することにより新政府の特質を学ぶ。 基礎学力到達度テスト対策	2 2
10	3 立憲国家の成立と日清戦争 2学期中間考査 4 日露戦争と国際関係 5 近代産業の発達 6 近代文化の発達	自由民権運動の思想的背景及びその階級的性格、意義を学ぶ。 大日本帝国憲法の制定過程と内容、及び日本国憲法との相違を学ぶ。 日露戦争は帝国主義国間の対立を背景に戦われたこと、日本国民は開戦無罪論に傾いていったことを学ぶ。 日本資本主義の発展とともに社会問題があらわれたことを学ぶ。 日清戦争後、日本の対外膨張を支える国家主義が思想界の主流になったことを学ぶ。	2 3
11	第10章 二つの世界大戦とアジア 1 第一次世界大戦と日本 2 ワシントン体制 3 市民生活の変容と大衆文化 4 恐慌の時代 5 軍部の台頭 2学期期末考査	日清戦争後、日本の対外膨張を支える国家主義が思想界の主流になったことを学ぶ。 近代国家の建設とともに西欧文化の影響を受け、文学・美術・建築様式などに新しい傾向が見られるようになったことを学ぶ。	2 3
12	6 第二次世界大戦 第11章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和 第12章 高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度成長へ 第13章 激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦終結と日本社会の動揺	第一次世界大戦から第二次世界大戦にかけて、変化する国際情勢を学ぶ。 西欧の帝国主義型発展の帰結として植民地争奪戦争が起きた。西欧社会を模範としてきた日本もその対立のなかで力財っていくことを学ぶ。 財閥解体と農地改革が日本の民主化にもつ政治的・経済的・社会的な意義を理解させる。 朝鮮戦争に際して、特需を土台に日本経済の復興が進められ、同時に戦後初期における民主化に逆行するような動きが起きてきたことにも注目させる。 保守一党優位の政治体制がもたらしたものを考えさせる。 経済の高度成長に伴って、国民生活の向上が見られた反面、経済成長のひずみがどのように現れ、どのような社会問題を生み出したか検討させる。 日中共同声明の意義について検討させる。 我々国民は、国家の主権者として、日本の進路を自主的な立場と態度をもって決定すべき重大な責任を担っていることをはっきりと自覚させる。	4
			140

地歴 科 3 年		地理B		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	地理B	対象	進 学 コース	単位数	5単位
教科書	新詳地理B	新詳高等地図	出版社	帝国書院	
副教材	新詳地理資料 COMPLETE 2019 (帝国書院) , チャレンジワーク地理 (学研)				

1 学習の到達目標

① 現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養う
② 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断してその結果や家庭を適切に判断している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追及の方法を理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への姿勢 ・定期テスト ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・小テスト・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス	○1年間の進め方 予習復習について	1
	Ⅲ-2-5 ○西アジア・中央アジア地誌	○西アジア・中央アジアの地誌を多様性に着目して理解する	6
	Ⅲ-2-6 ○アフリカ地誌	○アフリカの地誌を地域性に着目して理解する	7
5	<1学期中間テスト>		
	Ⅲ-2-7 ○ヨーロッパ地誌	○ヨーロッパの地誌を多様性に着目して理解する	8
	Ⅲ-2-8 ○ロシア地誌	○ロシアの地誌を地域性に着目して理解する	6

6	III-2-10 ○ラテンアメリカ地誌 *基礎学力到達度テスト問題演習	○ラテンアメリカの地誌を地域性に着目して理解する ○基礎学力到達度テストに向けての問題演習を行う	7 6
7	<1学期期末テスト>		
8	*基礎学力到達度テスト問題演習	○基礎学力到達度テストに向けての問題演習を行う	18
9	*諸地域の抱える課題について	○諸地域の抱える課題について、系統地理的・地誌的の両面か	18
10	<2学期中間テスト>	ら考察していく	
11	*諸地域の抱える課題について	○諸地域の抱える課題について、系統地理的・地誌的の両面か	18
12	<2学期期末テスト>	ら考察していく	
	*諸地域の抱える課題について	○諸地域の抱える課題について、系統地理的・地誌的の両面か	10
		ら考察していく	

地歴 科 3 年 地理A 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	地理A	対象	進学理系	コース	単位数 2 単位
教科書	高等学校 新地理A , 新詳高等地図			出版社	帝国書院
副教材	新詳地理資料 COMPLETE 2020 (帝国書院)				

1 学習の到達目標

① 現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養う。
② 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追及の方法を理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への姿勢 ・定期テスト ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・小テスト・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス 1-1-1 ○地球上の位置と国家	○1年間の進め方 予習復習について [学習内容] 地図と地球儀 図法 時差 領域 国家 [ねらい] 地球に関する基礎事項を学ぶ	1 7
5	1-1-2 ○グローバル化が進む世界 <1学期中間テスト>	[学習内容] 貿易 交通と通信 観光 [ねらい] グローバル化を貿易、交通と通信などから捉える	6
6	1-2-1 ○人々の生活と地形	[学習内容] プレートテクトニクス 大地形 小地形 [ねらい] 大地形、小地形の形成要因を理論的に学習する。	7

7	<p>1-2-2 ○人々の生活と気候</p> <p><1 学期期末テスト></p>	<p>[学習内容] 気候区分 地域特性 植生 土壌 人々の生活 [ねらい] 気候要素など、気候に関する基礎事項を理解する。</p>	7
8 9 10	<p>1-2-3 ○人々の生活と産業・文化</p> <p><2 学期中間テスト></p>	<p>[学習内容] 農業 工業 生活と文化のかかわり [ねらい] 生活と文化のかかわりを産業面から捉える。</p>	7
11	<p>1-3-11 ○オーストラリアの生活・文化</p>	<p>[学習内容] オーストラリアの自然, 産業, 文化 [ねらい] 地域の特徴を, 地誌的な見方・考え方で理解する。</p>	6
12	<p>1-3-9 ○アングロアメリカの生活・文化</p> <p><2 学期期末テスト></p>	<p>[学習内容] アングロアメリカの自然, 産業, 文化 [ねらい] 地域の特徴を, 地誌的な見方・考え方で理解する。</p>	6
	<p>1-3-3 ○東南アジアの生活・文化</p>	<p>[学習内容] 東南アジアの自然, 産業, 文化 [ねらい] 地域の特徴を, 地誌的な見方・考え方で理解する。</p>	6

公民 科 3 年		倫理		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	倫理	対象	進学文系	コース	単位数 2 単位
教科書	高等学校新倫理新訂版		出版社 清水書院		
副教材	高等学校新倫理新訂版ワーク・3ステップス倫理研究ノート問題集・最新図説資料集				

1 学習の到達目標

<p>① 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、人間としての在り方生き方について理解と思索を深める。</p> <p>② 人格形成に努める実践的意欲を高める。</p> <p>③ 他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。</p>
--

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関わる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探求するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、自己形成に生かす知識として身に付けている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・ワークシート ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・ワークシート ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

A. 定期考査の点数8割

B. 平常点20点

- ・ノート記入を含めた授業態度や出席状況
- ・学期ごとのワーク提出
- ・夏・冬の課題提出など

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時 間 数
4	ドイツ観念論 功利主義 プラグマティズム 第5節 個人と社会との関わり 社会主義	・カントとヘーゲルの思想の違いを理解する。 ・最大多数の最大幸福 ベンサム／不満足なソクラテス ミル ・社会の進歩改善を目指した思想家の幸福感を考えよう。 プラグマティズム／民主主義の実現と幸福デューイ 人間疎外の原因 マルクス／唯物史観	6
5	実存主義 第4編 第1章 日本の風土と外来思想の受容	自己を見つめる キルケゴール／実存的交わりヤスパース ニヒリズムを超えて／神の死と超人 ニーチェ／死への存在 ハイ デッガー／自由と責任 サルトル	7
6	1 学期中間考査 第1節 日本の風土と伝統 第2節 仏教の伝来と隆盛 1 仏教の移入 2 仏教の土着化	・古代日本人の信仰や風土について理解を深め、江戸時代の国学につ いても復習という観点で触れる。 ・仏教と日本人の思想形成 ・奈良・平安・鎌倉仏教についてそれぞれ学習し、これを通して日 本人の宗教観・思想形成がどのようになされたかを理解する。 ・江戸時代に儒教がどのように解釈されたか、また日本古来の思想 がどのように説かれたかを理解する。	8
7	第3節 儒教の日本化 1 儒教の伝来と朱子学 2 陽明学 3 古学 第4節 日本文化と国学 1 古典美の再発見 2 国学 第5節 近世庶民の思想 1 都市庶民の思想 2 農民の思想 第6節 西洋近代思想の受容 1 西洋文明との接触	・江戸時代までに形成された日本人の美意識について理解させる。 ・「幽玄」「わび」「さび」について、能・茶の湯・俳諧と具体的 な作品を通してその理念を理解させる。 ・本居宣長を中心として国学について理解する。 ・石田梅岩の石門心学を通じて営利活動の肯定と経済活動の発達に ついて考える ・安藤昌益、二宮尊徳 ・時代が大きく動いた幕末から明治にかけて、先人がいかに考え、 行動したかをとらえさせる。 ・近代国家成立の過程において、先人が個人と国家の関係をどのよ うにとらえたかを考えさせる。 ・西洋近代思想をささえる精神としてのキリスト教を受け入れた先 人の信仰と考え方を理解させる。	6
8	1 学期期末考査 2 啓蒙思想と民権論 3 キリスト教の受容 4 国家主義の高まりと社会主義 5 近代的自我の成立 6 近代日本哲学の成立 7 近代日本の思想傾向への反省 第2章 現代日本と日本人としての 自覚	・近代化をすすめる明治期の日本のあり方について、国家主義や国 粹主義、そして社会主義の立場で模索した先人の考え方をとらえさ せる。 ・文学作品を中心に、近代化を進めた明治大正期の日本人の近代的 自我へのめざめの動きを把握させる。 ・西欧に範を取った日本の近代化の中で、独自の思想の確立を求め て苦闘した思想家のあゆみを理解させる。 ・坂口安吾や丸山真男の著作や活動を通して、第二次世界大戦後の 日本の新たな価値観の模索について把握させる。	6
9	新たな価値観の模索 現代日本と私たちの課題 第3編 5・6節 主体性の確立 (P. 120～)	他者への共感／マザー＝テレサとボランティア 生命への畏敬 無意識の領域	3
	他者への奉仕 第6節 現代における理性の問題 現代における理性の見直し 科学観の変換	・経験的事実に基づく知識が、確実な学問的知識であることを知る ・「生命への畏敬」とはどのような考えか、また、社会福祉とは何かを考え、 今の民主社会の諸問題を探る。 近代の理性主義に対する見直しや科学観の転換がどのように為されて現代	8

10	<p>日本大学基礎学力到達度テスト対策 演習</p>	<p>哲学が展開したのかを探る。実践演習(プリント) それぞれのテーマについて、倫理の総復習として位置付け、プリントを活用しながら小論文対策も念頭に入れ、多角的に取り組ませ、理解の深化を図る。 出題範囲である第1編から第4編までの総復習と問題演習に取り組み、到達度テスト対策を行う。 『3ステップス倫理研究ノート問題集』を活用させながら2年次より履修した全範囲の演習をおこなう。(2年次以降3年次7月までの履修完了範囲は夏季休暇中の課題とする)</p>	7
11	<p>2学期中間考査 第5編 現代の諸課題と倫理 演習</p>	<p>それぞれのテーマについて、倫理の総復習として位置付け、プリントを活用しながら小論文対策も念頭に入れ、多角的に取り組ませ、理解の深化を図る。 『3ステップス倫理研究ノート問題集』を活用させながら履修した全範囲の演習をおこなう。</p>	8
12	<p>2学期期末考査</p>		

公民 科 3 年		政治経済		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	政治経済	対象	進 学	コース	単位数
教科書	『高等学校 新政治・経済 新訂版』			出版社	清水書院
副教材	『高等学校 新政治・経済 新訂版ワークノート』 (清水書院)				

1 学習の到達目標

<p>① 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせる。</p> <p>② 現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させる。</p> <p>③ 現代における政治、経済、国際関係などにかかわる諸課題について主体的に考察させる。</p> <p>④ 現代における政治、経済、国際関係などにかかわる諸課題について公正に判断できる力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。</p>

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の 観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の 内容	現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとしている。	現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている
評価の 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数	
4	・ガイダンス	・今年度の学習の仕方等を確認する。また、受験に向けての心構えを周知する。 1年次に学習した内容の総復習（経済分野） 経済活動の意義／経済思想／経済主体／価格と市場／市場機構の限界	1 学期 35 時間	
5	第2編 現代の経済 第1章 現代経済の特質	41 現代の企業 42 物価変動と国民生活 43 経済成長と景気変動 44 政府の経済的役割 45 租税と国際 46 日本財政の課題 47 貨幣の役割と金融 48 金融市場と金融政策 49 金融環境の変化 現代企業の主要な形態や構造、諸問題について考察する。物価変動が暮らしに与える影響や、景気の安定に向けた、政府や中央銀行の政策について理解し、現代の財政政策、金融政策について考察する。 貨幣にはどのような役割があるか、具体的に理解させ金融について考える。また金融の自由化とは何か、金融の自由化によって何が変わったか、理解する。		
6	第2章 現代の日本経済 〈一学期中間考査〉	50 戦後の日本経済のあゆみ 51 農業と食糧問題 52 中小企業 53 情報化の進展・サービス産業 54 公害・環境問題 55 消費者問題 56・57 労働問題 58・59 社会保障制度 日本の経済誌について理解した上で、日本が抱える諸問題について考える。第二次世界大戦後の農業政策の変遷、中小企業が日本経済の中で占めている地位と期待されている役割、情報化の進展とサービス産業の進展について考える。 公害問題や環境問題についてその原因について理解しその対策について調べ学習やレポート提出によって主体的に考察する。 現代社会が抱える消費者問題、労働問題について理解し、その解決方法について調べ学習やレポート提出によって主体的に考える。 世界の社会保障制度と日本の社会保障制度を比較しその概要を理解し、日本の社会保障制度はどのような課題に直面しているか、財源と医療・介護・福祉サービスの質と量の確保の観点から、考察させる。		
7	第1編 現代の政治 第6章 国際政治と日本 〈一学期期末考査〉	28 国際社会の形成 29 国際法の進展 30 国際連盟／国際連合 31 国際連合の機能と課題 32 冷戦期の国際政治 33 現代の国際政治 34 核兵器と軍縮の動き 35 国際社会における日本の役割 国際社会形成の歴史や国際法の内容、国際政治における国際連合の役割について理解する。また、冷戦を経ての社会が抱える問題を理解し、日本の役割について考察する。		
8	第2編 現代の経済 第3章 国際経済と日本	60 貿易と国際経済 61 貿易の意義と課題 62 国際収支の仕組みと現状 63 為替相場の仕組みと意義 64 戦後の国際経済 65 IMF・WTO 66 国際的な経済格差 67 地球環境問題 68 エネルギー問題 69 地域的経済統合 70 国際経済における日本の役割		
9	〈二学期中間考査〉	グローバリゼーションの進展により各国経済間の相互依存と一体化が深まっている状況を、具体的な事例を通して理解させる。国際分業について理解し貿易の意義について考える。国際収支について理解する。第二次世界大戦後の国際通貨体制とIMFWTOについて理解するとともに、南南問題、南北問題、地域的経済統合について考察する。 現代社会が抱える地球規模の諸問題について考え、その解決方法について考察するとともに、日本の役割について考察する。		
10	第3編 現代の政治・経済の諸課題 〈二学期期末考査〉	現代の諸課題について、グループワーク、レポート作成によって理解を深め、その解決方法について考察する		
11				2 学期 45 時間
12				

解度やその他都合の為、省略や変更、前後することもありうる。

地歴 科 3 年 世界史 B 年間授業計画 (シラバス)						
科目名	世界史 B	対象	特進	コース	単位数	3 単位
教科書	詳説世界史 B [改訂版]		出版社 山川出版社			
副教材	最新世界史図説タペストリー [十六訂版] (帝国書院)		ゼミナール世界史 (浜島書店)			
	短期攻略共通テスト世界史 B [改訂版] (駿台文庫)		世界史 B 用語集 (山川出版社)			

1 学習の到達目標

① 世界の歴史の大きな枠組みと展開を、諸資料に基づき、地理的条件や日本の歴史と関連付けて構造的に理解する。
② 世界の歴史における文化・文明の多様性・複合性を、諸地域世界の接触や交流に着目して考察する。
③ 世界の歴史の理解を踏まえて、現代社会の特質を様々な要素の関連の中で考察する。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代社会の特質を多面的・多角的に課題を考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取りたり図表などにまとめたりしている。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノート提出	学習活動における 発言内容 定期考査 単元テスト ノート提出	定期考査 単元テスト	定期考査 単元テスト 課題提出

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・単元テスト・ノート提出・課題提出) 2割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容とねらい	時間数
4	ガイダンス 学習方法習得体験学習	・「学習のねらい」「授業の概要」「評価方法」について説明。 ・大学入試センター試験、及び個別学力試験を念頭に置き、世界史の学習方法を体得する。	1 1
	[第10章] フランス革命とナポレオン	・フランス革命の展開とナポレオンの事績に触れ、革命とナポレオン帝政の特色、及びそれらがもたらした国民国家の理念について理解する。	4

5	<p>[第11章] 欧米における近代国家の発展</p> <p>【一学期中間考査】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・19世紀における欧米世界の歴史の大きな枠組みと展開に触れ、ウィーン体制下の各地における国民統一国家の形成、アメリカ合衆国の領土拡張と南北戦争の特色、ラテンアメリカ諸国の独立、及び19世紀の欧米文化について理解する。 	1 2
6	<p>[第12章] アジア諸地域の動揺</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・西アジア（オスマン帝国・アラブ世界）、南アジア（インド）、東アジア（清・朝鮮・日本）などの動向に触れ、ヨーロッパ諸国のアジアへの進出と、それに端を発したアジア諸地域の政治・社会・文化の変容について理解する。 	1 2
7	<p>[第13章] 帝国主義とアジアの民族運動</p> <p>【一学期期末考査】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ諸国によるアフリカ・アジア・太平洋・カリブ海地域への進出とイスラーム世界やインド・中国、ラテンアメリカ地域の動向に触れ、帝国主義の背景・展開・国内政治の様子、及びアジア・アフリカでの民族運動について理解する。 	1 2
8 9	<p>[第14章] 二つの世界大戦</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総力戦としての二つの世界大戦を中心に、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現とファシズム、世界恐慌と資本主義の変容、アジア（中国・インド・イスラーム世界）・アフリカの民族運動に触れ、20世紀前半の世界の動向と社会の特質について理解する。 	1 2
10	<p>【二学期中間考査】</p>		
11	<p>[第15章] 冷戦と第三世界の自立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・米ソ両陣営による冷戦の展開、戦後の復興と経済発展、アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題、平和共存の模索などに触れ、第二次世界大戦後から1960年代までの世界の動向について理解する。 	9
11	<p>[第16章] 現代の世界</p> <p>【2学期期末考査】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市場経済のグローバル化とアジア経済の成長、冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーを巡る問題などに触れ、1970年代以降の世界と日本の動向及び社会の特質について理解する。 	9
12	<p>[共通テスト試験対策]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テスト試験過去問題集・実践問題集を活用し、センター試験対策学習会をおこなう（適宜復習を並行する）。 	
1	<p>[個別学力試験対策]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・二次試験受験者を対象に、受験指導をおこなう。 	
2			

地歴 科 3 年 日本史A 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	日本史A	対象	特進	コース	単位数 1 単位
教科書	高等学校 日本史A 人・くらし・未来			出版社	第一学習社
副教材	補助プリント資料				

1 学習の到達目標

我が国の歴史の展開を諸資料に基づき総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果そうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	ノート提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 3回の定期考査8割, 平常点(学習態度・小テスト・ノート・課題など) 2割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容とねらい	時間数
4	ガイダンスおよび満州事変と軍部の台頭	・関東軍による中国東北地方の支配の背景と過程を学び日本の国際的孤立化と太平洋戦争への道を理解する	4
5	三国防共協定と日中戦争	・イタリア、ドイツに接近し三国防共協定を締結し、国際的孤立化の過程を理解する。	3
6		・盧溝橋事件をきっかけに第2次国共合作が成立し宣戦布告なきに日中戦争に突入していく過程を理解する。	3
7	【一学期期末考査】		
8	アメリカとの開戦		
9	ヨーロッパと太平洋上の	・日米交渉の破たん太平洋戦争への過程を理解する	
10	戦線拡大	・日本、ドイツ、イタリアの敗色の強まりと連合軍による戦後構想の構築の過程を理解する。	3
	日本の敗戦		3
11	【二学期期末考査】	・ポツダム宣言の受諾によって無条件降伏した日本の戦後を理解する	3

地歴 科 3 年 日本史B 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	日本史B	対象	特進文系	コース	単位数 4 単位
教科書	『詳説日本史 改訂版』		出版社 山川出版社		
副教材	日本史の整理と演習 (とうほう) プロムナード日本史 (浜島書店) 日本史B用語集 (山川出版社) 短期攻略 共通テスト日本史B 改訂版 (駿台文庫)				

1 学習の到達目標

① 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の趣旨	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果そうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	ノート提出 問題集提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・ノート・プリント・問題集など) 2割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容とねらい	時間数
4	ガイダンス (体験学習等) 第8章幕藩体制の動揺 3 幕府の衰退と近代への道 (4 化政文化) 第9章 近代国家の成立 1 開国と幕末の動乱	日本史学習のモデルスタイル等のレクチャー 社会・経済の発展により政治・財政改革が盛んに行なわれるが、大塩の乱や天保の改革の失敗により幕府権力が衰退していく過程を学ぶ。 工場制手工業 (マニュファクチュア) の発達など軽工業の分野における経済の発達と、藩財政の建て直しから雄藩と呼ばれ幕末に反幕勢力の中心となる藩の発生について理解する。 長州藩と薩摩藩の行動を対比させながら、尊攘運動を考察させる。また、尊攘派志士の背後に豪農豪商層がいたことを理解させる。	13
5	2 明治維新と富国強兵 1学期中間考査	五箇条の御誓文、政体書のもつ開明性と五榜の揭示の封建性の矛盾を検討することによって新政府の性格を理解させる。	15
6	3 立憲国家の成立と日清戦争 4 日露戦争と国際関係 5 近代産業の発展 6 近代文化の発達	自由民権運動の思想的背景及びその階級的性格、意義を考察させる。 日露戦争は帝国主義国間の対立を背景にして戦われたこと、及び日本国民の大多数は支配層の開戦強硬論に動かされていたことを説明する。日本資本主義の発展とともに社会問題が現れたことを理解させる。 日清戦争後、日本の対外膨張を支える国家主義が思想界の主流になったことを理解させる。	18
7	1学期期末考査		9
8	学力テスト		1

9	<p>第10章 近代日本とアジア</p> <p>1 第一次世界大戦と日本</p> <p>2 ワシントン体制</p> <p>3 市民文化</p>	<p>政党・ジャーナリストは民衆の政治的成長を背景に護憲運動を起こし、閥族支配を動揺させたことを理解させる。</p> <p>第2次護憲運動の結果、護憲三派内閣が成立し、普通選挙法が成立したが、無産階級の台頭を恐れる政党は治安維持法を制定して社会運動に弾圧を加えたことを理解させる。</p> <p>民衆勢力の台頭によって文化が少数の特権階級の独占物ではなくなり、いわゆる大衆文化が成立した点に留意させる。</p>	18
10	<p>4 恐慌の時代</p> <p>5 軍部の台頭</p> <p>2学期中間考査</p> <p>6 第二次世界大戦</p>	<p>戦後恐慌・金融恐慌・世界恐慌と次々に恐慌に見まわれ、ついに深刻な昭和恐慌に突入し、日本は対外侵略の道を歩むことになることを理解させる。</p> <p>満州事変に始まる日本の大陸進出の過程を通じて、世界の中における日本の立場が孤立していったことを理解させる。</p> <p>日本の中国進出政策がさらに南方進出政策へと拡大され、日中戦争から太平洋戦争へと展開していった過程について理解させる。</p>	13
11	<p>第11章 占領下の日本</p> <p>1 占領と改革</p> <p>2 冷戦の開始と講和</p> <p>第12章 高度成長の時代</p> <p>1 55年体制</p> <p>2 経済復興から高度成長へ</p> <p>第13章 激動する世界と日本</p> <p>1 経済大国への道</p> <p>2 冷戦終結と日本社会の動揺</p> <p>2学期期末考査</p>	<p>財閥解体と農地改革が日本の民主化にもつ政治的・経済的・社会的な意義を理解させる。</p> <p>朝鮮戦争に際して、特需を土台に日本経済の復興が進められ、同時に戦後初期における民主化に逆行するような動きが起きてきたことにも注目させる。</p> <p>保守一党優位の政治体制がもたらしたものを考えさせる。</p> <p>経済の高度成長に伴って、国民生活の向上が見られた反面、経済成長のひずみがどのように現れ、どのような社会問題を生み出したか検討させる。</p> <p>日中共同声明の意義について検討させる。</p> <p>我々国民は、国家の主権者として、日本の進路を自主的な立場と態度をもって決定すべき重大な責任を担っていることをはっきりと自覚させる。</p>	26
			112
12	演習		

地歴 科 3 年 地理B 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	地理B	対象	特進理系	コース	単位数 3単位
教科書	新詳地理B 新詳高等地図		出版社 帝国書院		
副教材	新編地理資料 2019 (とうほう), '19 新地理の研究 (啓隆社), 地理統計要覧 2019 (二宮書店) 地理B用語集 (山川出版社), ウィニングコンパス地理 (とうほう)				

1 学習の到達目標

<p>① 現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養う</p> <p>② 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。</p>
--

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断してその結果や家庭を適切に判断している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追及の方法を理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への姿勢 ・定期テスト ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・小テスト・課題など) 2割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容とねらい	時間数
4	ガイダンス	○1年間の進め方 予習復習について	1
	Ⅲ-2-5 ○西アジア・中央アジア地誌	○西アジア・中央アジアの地誌を多様性に着目して理解する	4
5	Ⅲ-2-6 ○アフリカ地誌 <1学期中間テスト>	○アフリカの地誌を地域性に着目して理解する	5
6	Ⅲ-2-7 ○ヨーロッパ地誌	○ヨーロッパの地誌を多様性に着目して理解する	8

	III-2-8 ○ロシア地誌	○ロシアの地誌を地域性に着目して理解する	4
7	III-2-10 ○ラテンアメリカ地誌 ＜1学期期末テスト＞	○ラテンアメリカの地誌を地域性に着目して理解する	6
8	II-4-2 ○民族・領土問題	○世界の民族・領土問題について、その原因や解決に向けた取り組みなどを理解する。	6
9	I-1-1 ○地理情報と地図 ・現代世界の地図	○現代の地図や身近な地図について理解する。	6
10	I-1-2 ・地図の種類と利用	○地図と地球儀の違いを理解し、地図の描画法を学ぶ・	3
	I-2 ○地図の活用と地域調査	○地形図の読図について理解し、読図力を身に付ける。	8
11	*センター試験対策問題演習 ＜2学期中間テスト＞	○センター試験に向けての問題演習を行う。	5
12	*センター試験対策問題演習 ＜2学期期末テスト＞	○センター試験に向けての問題演習を行う。	20

公民 科 3 年		倫理		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	倫理	対象	特進文系	コース	単位数 2 単位
教科書	高等学校新倫理新訂版		出版社 清水書院		
副教材	高等学校新倫理新訂版ワーク・完全 MASTER 倫理問題集・最新図説資料集				

1 学習の到達目標

<p>① 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、人間としての在り方生き方について理解と思索を深める。</p> <p>② 人格形成に努める実践的意欲を高める。</p> <p>③ 他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。</p>
--

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関わる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探求するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、自己形成に生かす知識として身に付けている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・ワークシート ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・ワークシート ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

A. 定期考査の点数8割

B. 平常点20点

- ・ノート記入を含めた授業態度や出席状況
- ・学期ごとのワーク提出
- ・夏・冬の課題提出など

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時 間 数
4	功利主義 プラグマティズム 第5節 個人と社会との関わり 社会主義 実存主義	・最大多数の最大幸福 ベンサム／不満足なソクラテス ミル ・社会の進歩改善を目指した思想家の幸福観を考えよう。 プラグマティズム／民主主義の実現と幸福デューイ 人間疎外の原因 マルクス／／唯物史観	3
5	第4編 第1章 日本の風土と外来思想の受容 <u>1学期中間考査</u> 第1節 日本の風土と伝統 第2節 仏教の伝来と隆盛 1 仏教の移入 2 仏教の土着化	自己を見つめる キルケゴール／実存的交わりヤスパース ニヒリズムを超えて／神の死と超人 ニーチェ／死への存在 ハイ デツガー／自由と責任 サルトル ・古代日本人の信仰や風土について理解を深め、江戸時代の国学に ついて復習という観点で触れる。 ・仏教と日本人の思想形成 ・奈良・平安・鎌倉仏教についてそれぞれ学習し、これを通して日 本人の宗教観・思想形成がどのようになされたかを理解する。 ・江戸時代に儒教がどのように解釈されたか、また日本古来の思想 がどのように説かれたかを理解する。	9
6	第3節 儒教の日本化 1 儒教の伝来と朱子学 2 陽明学 3 古学 第4節 日本文化と国学 1 古典美の再発見 2 国学 第5節 近世庶民の思想 1 都市庶民の思想 2 農民の思想 第6節 西洋近代思想の受容 1 西洋文明との接触 <u>1学期期末考査</u>	・江戸時代までに形成された日本人の美意識について理解させる。 ・「幽玄」「わび」「さび」について、能・茶の湯・俳諧と具体的 な作品を通してその理念を理解させる。 ・本居宣長を中心として国学について理解する。 ・石田梅岩の石門心学を通じて営利活動の肯定と経済活動の発達に ついて考える。 ・安藤昌益、二宮尊徳 ・時代が大きく動いた幕末から明治にかけて、先人がいかに考え、 行動したかをとらえさせる。 ・近代国家成立の過程において、先人が個人と国家の関係をどのよ うにとらえたかを考えさせる。	9
7	2 啓蒙思想と民権論 3 キリスト教の受容 4 国家主義の高まりと社会主義 5 近代的自我の成立 6 近代日本哲学の成立 7 近代日本の思想傾向への反省 第2章 現代日本と日本人としての 自覚 新たな価値観の模索	・西洋近代思想をささえる精神としてのキリスト教を受け入れた先 人の信仰と考え方を理解させる。 ・近代化をすすめる明治期の日本のあり方について、国家主義や国 粹主義、そして社会主義の立場で模索した先人の考え方をとらえさ せる。 ・文学作品を中心に、近代化を進めた明治大正期の日本人の近代的 自我へのめざめの動きを把握させる。 ・西欧に範を取った日本の近代化の中で、独自の思想の確立を求め て苦闘した思想家のあゆみを理解させる。	6
8	現代日本と私たちの課題 第3編 5・6節 主体性の確立 他者への奉仕	・坂口安吾や丸山真男の著作や活動を通して、第二次世界大戦後の 日本の新たな価値観の模索について把握させる。 他者への共感／マザー＝テレサとボランティア 生命への畏敬	
9	第6節 現代における理性の問題 現代における理性の見直し 科学観の変換	無意識の領域 ・経験的事実に基づく知識が、確実な学問的知識であることを知る ・「生命への畏敬」とはどのような考えか、また、社会福祉とは何かを考え、 今の民主社会の諸問題を探る。	3
	日本大学基礎学力到達度テスト対策 演習	近代の理性主義に対する見直しや科学観の転換がどのように為されて現代 哲学が開かれたかを探る。実践演習(プリント)	8

		<p>それぞれのテーマについて、倫理の総復習として位置付け、プリントを活用しながら小論文対策も念頭に入れ、多角的に取り組み、理解の深化を図る。</p> <p>出題範囲である第1編から第4編までの総復習と問題演習に取り組み、到達度テスト対策を行う。</p> <p>『完全 MASTER 倫理問題集』を活用させながら2年次より履修した全範囲の演習をおこなう。(2年次以降3年次7月までの履修完了範囲は夏季休暇中の課題とする)</p>	
10	<p>2学期中間考査 第5編 現代の諸課題と倫理</p>	<p>それぞれのテーマについて、倫理の総復習として位置付け、プリントを活用しながら小論文対策も念頭に入れ、多角的に取り組み、理解の深化を図る。</p>	7
11	<p>演習 2学期期末考査</p>	<p>『完全 MASTER 倫理問題集』等を活用しながら大学入試共通テストに向けた全範囲の演習をおこなう。</p>	8
12	<p>演習</p>		

公民 科 3 年		政治経済		年間授業計画 (シラバス)		
科目名	政治経済	対象	特進文系	コース	単位数	3 単位
教科書	『高等学校 新政治・経済 新訂版』			出版社	清水書院	
副教材	政治経済資料集 (とうほう) 高等学校 新政治・経済 新訂版ワークノート					

1 学習の到達目標

<p>① 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせる。</p> <p>② 現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させる。</p> <p>③ 現代における政治、経済、国際関係などにかかわる諸課題について主体的に考察させる。</p> <p>④ 現代における政治、経済、国際関係などにかかわる諸課題について公正に判断できる力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。</p>

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとしている。	現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時 間 数	
4	・ガイダンス 第2編 現代の経済 第1章 現代経済の特質	・今年度の学習の仕方等を確認する。また、受験に向けての心構えを周知する。 36 経済活動の意義 37 経済思想 38 経済主体 39 価格と市場 40 市場機構の限界 41 現代の企業 42 物価変動と国民生活 43 経済成長と景気変動 44 政府の経済的役割 45 租税と国債 46 日本財政の課題 経済活動とは何か、経済学者の思想に触れ、経済を学ぶ上での基礎を確立させる。経済主体について、価格の役割について理解する。需給曲線を理解し、「市場の失敗」について考察する。企業の最終的な目的と社会的責任について考察する。また株式会社について、その組織と特徴を理解する。	1 学期 35 時間	
5	〈一学期中間考査〉	物価変動と国民生活の関係について理解し、適切な財政政策と金融政策について考察する。経済指標、財政の基本的な仕組みについて、理解する。望ましい税制について考察するとともに国債発行による財源の調達必要性と問題点について理解する。		
6	第2章 現代の日本経済	47 貨幣の役割と金融 48 金融市場と金融政策 49 金融環境の変化 50 日本経済のあゆみ 51 農業と食糧問題 52 中小企業 53 情報化の進展・サービス産業 54 公害・環境問題 55 消費者問題 56・57 労働問題 58・59 社会保障制度 金融について理解する。金融政策とその効果について考察する。金融の自由化による現代社会の変化について理解する。 日本の経済史について理解し、日本が抱える諸問題について考える。第二次世界大戦後の農業政策の変遷、中小企業の地位と役割、情報化の進展とサービス産業の進展について考える。現代社会が抱える諸問題（公害・環境・消費者、労働）について理解し、その解決方法について考える。 世界の社会保障制度と日本の社会保障制度を比較しその概要を理解する。日本の社会保障制度は課題について考察する。		
7	〈一学期期末考査〉			
8	第3章 国際経済と日本	60 貿易と国際経済 61 貿易の意義と課題 62 国際収支の仕組みと現状 63 為替相場の仕組みと意義 64 戦後の国際経済 65 IMF・WTO 66 国際的な経済格差 67 地球環境問題 68 エネルギー問題 69 地域的経済統合 70 国際経済における日本の役割		
9		グローバリゼーションの進展により各国経済間の相互依存と一体化が深まっている状況を、具体的な事例を通して理解させる。 国際分業について理解し貿易の意義について考える。国際収支について理解する。 第二次世界大戦後の国際通貨体制と IMFWTO について理解するとともに、南南問題、南北問題、地域的経済統合について考察する。 現代社会が抱える地球規模の諸問題について考え、その解決方法について考察するとともに、日本の役割について考える。		
10	〈二学期中間考査〉			
11	第3編 現代の政治・経済の諸課題	現代の諸課題について、グループワーク、レポート作成によって理解を深め、その解決方法について考察する		
12	問題演習 〈二学期期末考査〉	問題演習を通して知識の定着を図る。		2 学期 45 時間

解度やその他都合の為、省略や変更、前後することもありうる。